はじめに

ゼネラルマネージャー　菅野 貴大
(行政政策学類 4 年)

まずはじめに、東日本大震災から 4 年目となった今年度も、多くの方々からのご支援・ご協力があり活動できたことに深く感謝し御礼申し上げます。

今年度は昨年度よりも活動の幅がまた少し広がった反面、仮設住宅における活動では、より 1 人 1 人との関係を構築し継続することへのシフトを図ってきました。仮設住宅から復興公営住宅に移り住むなどで、仮設住宅という括りでコミュニティ支援を継続するのはもちろんですが、より個人への関わりを大切に、この 1 年間は活動をしてきました。それだけではなく例年に増して県外での福島発信活動にも精力的に取り組み、関西大学と共同で参加した「天音祭」や東京駅八重洲地下街で明治大学と共同して行った「東北復興展」など様々な場所や機会で福島の"今"を伝えてきました。

また、今年度は上記のように他大学や他団体と共同して企画を実行するというのが多くなったように感じました。震災から 4 年が経った今も、県外で福島を想いながら行動してくれる仲間が沢山いることをとても心強く思います。

卒業の時を迎えた今、改めて振り返ってみると、私たちの学年は福島大学に入学する直前の 2011 年 3 月に震災が起き、不安を抱えながらの大学生活スタートとなりました。私自身は福大災ボラの活動に本格的に参加し始めたのは 2 年生からでしたが、それからの 3 年間でさまざまな経験ができたと思います。日々の仮設住宅での活動、子どもたちや家族を対象にしたキャンプ活動、他大学の学生たちと連携した活動…1 つ 1 つの活動での 1 コマ、思い出が今でも鮮明に思い出せるほどです。

災害と向き合い、災害と共にあゆんだ 4 年間でしたが、卒業生一人一人がそれぞれの想いを持って福大災ボラの活動に取り組んできました。最終学年となった今年度は、特に想いを持って活動してきました。この報告書は、そんなそれぞれが想いを持って活動したものをまとめたものです。活動の一つ一つに目を通していただき、「今の福島」を感じ、「これからの福島」に向けて考える 1 つのきっかけになっていただければ幸いです。

来年度は 5 年目という節目の年となります。私は卒業してしまいますが、後輩たちが卒業生たちの想いを引き継ぎ、これからも被災地・被災された方々に寄り添えるような活動を展開していってくれると思います。最後に、皆様からの福大災ボラへの変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

目次

はじめに

1. 被災地支援
   1-1. 津波被災地での活動
   1-2. 南相馬市小高区学習支援フリースペース
   1-3. 被災地視察(浪江町、田村市都路地区、新潟県長岡市山古志地区)

2. 仮設住宅・民間借上げ自治会への支援活動
   2-1. 季節イベント
   2-2. 足湯活動(足湯+αの活動)
   2-3. 元気体操サロン(JOYBEAT)

3. 子ども・家族支援(キャンプ活動)
   3-1. リフレッシュ体験ツアー(夏・冬)
   3-2. 第2回 集まれ!!ふくしま子ども大使
   3-3. ふるさとで過ごそう!!家族のクリスマス

4. 他大学、団体との協同活動
   4-1. 繋ぐ～KYOTOHOKU～(京都学生祭典)
   4-3. よさこい交流会(高知大学)
   4-4. 鹿児島サロン(鹿児島大学)
   4-5. アースウォーカーズとの協同活動(NPO 法人 アースウォーカーズ)

5. 登録者フォローアップ事業
   5-1. ボランティアステップアップツアー2014
   5-2. 災ボラウィーク 2014

6. これまでの活動一覧

7. 決算報告

おわりに

1. 津波被災地支援

1-1. 津波被災地での活動(南相馬市小高区)

【概要】

原発事故発生以来、避難指示が出ていた福島県南相馬市小高区は、2012 年 4 月 16 日に警戒区域解除となり、現在は 2017 年度の帰還目標を立て、住民帰還へ向けた準備を進めている。

福島大災ボラが初めて南相馬市小高区を訪れたのは震災から 2 年が経過した 2013 年 4 月 23 日だったが、依然としてガレキの山や残骸が散乱しており、とても住民が帰還できるような状態にはなかった。

福大災ボラでは 2013 年度より、NPO 法人災害復興支援ボランティアネットが運営している『南相馬市ボランティア活動センター』にボランティアコーディネートをしていただく形で南相馬市小高区での活動に取り組んでいる。今年度の活動は、主にがれき撤去、民家の竹・草刈り、農地の整備などを中心に行なった。

【活動日時・活動人数】

7 月 12 日(土)	: 10 名
9 月 10 日(水)、11 日(木)	: 8 名
11 月 30 日(日)	: 11 名

【活動内容】

がれき撤去、住宅の中の荷物出し、住宅の庭の整理(草刈りなど)、農地の整備

【参加者の声】　　藤田 真慧(共生システム理工学類 1 年)

南相馬での活動は初めての被災地での活動でした。南相馬の風景は自分の住んでいるところと違って、草がたくさん生えていたり、建物が崩れていたりしていました。そこでの活動はお墓の草を刈ることや家の裏庭のお手入れなどをやりました。草を刈るだけでも数人がかりで何時間も費やすので、このボランティアは人を集めて地道に続けていかなくてはならないことだなと思いました。

【活動写真】

1-2. 南相馬市小高区学習支援フリースペース

【概要】

震災から 4 年が経過した現在も南相馬市小高区の小中学生は仮設校舎での授業を続けている。特別教室は無く、校庭や体育館も間借りして、毎日の生活を送っているという現状である。

そこで、長期休業を利用し学び＆遊びの場を設け、少し年の離れた大学生との関わりの中で子ども達の心身のリフレッシュや、勉強に対する意欲を高められればと小高区小・中学校児童生徒親の会が企画し、福大災ボラで協力した。保護者の方や参加してくれた小中学生からの評判も良く、2014 年の冬の開催で 6 回目を迎えた。

【期間】

・夏季休業　平成 26 年 8 月 1 日～10 日　　計 10 日間
・冬季休業　平成 26 年 12 月 20 日～27 日　　計 8 日間

【場所】

・南相馬市鹿島区万葉ふれあいセンター
・小高小学校仮設校舎

【協力・共催】

・小高区小・中学校児童生徒親の会

【活動人数】

<u>夏季</u>　　福島大学 8 名、明治大学 8 名、城西国際大学 5 名、
仙台白百合女子大学 3 名、日本大学 3 名、立命館大学 3 名、神奈川大学 2 名、
京都女子大学 2 名、京都薬科大学 2 名、総合衛生学院 2 名、関西外語大学 1 名、
京都光華女子大学 1 名、大学院生・社会人など 5 名

<u>計 46 名</u>

<u>冬季</u>　　福島大学 10 名、京都女子大学 5 名、明治大学 5 名、京都薬科大学 2 名
仙台白百合女子大学 2 名、総合衛生学院 2 名、京都光華女子大学 1 名、
東京女子大学 1 名、東京農業大学 1 名、中央大学 1 名、宮城教育大学 1 名、
立命館大学 1 名、大学院生・社会人など 10 名

<u>計 42 名</u>

【内容】子どもたちの学習・遊び支援、被災地視察

<u>夏季</u>

・野外活動＠南相馬ソーラー・アグリパーク（6 日）
・お団子作り(9 日）
・京都の学生による踊り披露、夏祭り企画(10 日）

<u>冬季</u>

・被災地視察(学生のみ、22 日）
・科学実験教室(23 日）
・『カルピス』こども乳酸菌研究所
（カルピス株式会社　人事・総務部　広報・CSR グループ）(24 日）
・お菓子作り、クリスマス会(25 日）
・京都の学生による踊り披露、駄菓子屋さん、餅つき(27 日）

【参加者の声】　上木 郁乃(京都女子大学)

私は 2014 年の夏と冬に、フリースペースに参加しました。

初めて福島の子どもたちに出会ったとき、子どもたちが周りの様子をよく見ているところや、周りの人たちへの心配りが自然とできている様子に驚いたことを、今でもよく覚えています。私は京都・大阪・奈良で教育実習や学習支援活動の経験させて頂き、子どもたちとふれあう機会が多かったのですが、関西の子どもたちにはあまり感じたことがなかった、周りを見る力や、相手の気持ちを汲み取る優しさを、福島の子どもたちから感じたのです。あくまで私が感じたことで、あいまいな表現しかできないのですが、福島の子どもたちから特別な優しさ・温かみを感じたことは確かです。

こういったことを感じたのは、子どもたちの人とふれあう様子から感じました。フリースペースへの初参加で緊張していた私に、子どもたちは自然と話しかけてくれて、出会ったばかりの私にとても温かい笑顔を見せてくれました。関西弁で年も離れている私に、そんな壁がないように自然と寄り添ってきてくれました。次々とくる、新しい参加者の学生の方たちにも、子どもたちは分け隔てなく優しく接し、温かく向かい入れてくれていました。また調理実習では、子どもたちがグループに分かれる際、自分がどのグループにいきたいかよりも、人数の割合を気にしたり、周りに気を配って動いてくれていた子がいました。こんなふうに、初めて会った人にも優しい笑顔を向けてくれたり、自分がどうしたいかよりも全体の流れを大切にしてくれようとする姿勢は、震災を経て、人と助け合いながら生きるということを、子どもたちが実際に経験してきているからなのか

もしれない。そう感じました。子どもたち自身は、自分たちがどれだけ人にとって大切なものをもっているのか、気がついてないかもしれません。いつか、自分のなかの大切なものに気がついて、多くのことを乗り越えたことが、自分たちの糧になっていることがわかるときが来ると思います。その時まで、子どもたちには、自分たちの大切なものを持ち続けてほしいと切に思います。

そんな子どもたちですが、大学生のお兄さん・お姉さんと遊んでいるときは、めいっぱい目を輝かせて、思うがまま思いきり体を動かしていました。感情をありのままだしてくれるその姿は、とても子どもらしくて生き生きしていました。きっと、常に大学生が子どもたちを見守り、そうすることで子どもたちが感じる“安心感”が大きな役割を果たしているのだろうと感じました。フリースペースが、子どもたちにとって安心できる場所、思いきり自分をだして遊べる場所であってほしいと思いました。

また、学習支援という点では、単に学生が子どもたちの勉強をみるだけではなく、学生が持ち寄った企画を通して、子どもたちの学習意欲につながる支援ができたのではないかと思います。特に、冬のフリースペースで行われた駄菓子屋教室では、学校の勉強だけで終わってしまうような、普段の生活ではあまり使わない平均や小数点の計算に一生懸命取り組み、駄菓子を買おうとする子どもたちの様子は印象的でした。

これからも、フリースペースが子どもたちにとって、たくさんの人との出会いの場所であり、学びの場所であり、成長できる場所であり続けてほしいと願います。私自身、子どもたちや保護者の方々、たくさんの学生のみんなと過ごしたフリースペースの思い出は、私のなかのたからものです。このたからものを返していけるよう、ささやかではありますが、私ができるフリースペースへのお手伝いを続けていきたいと思っています。

【活動写真】

1-3. 被災地視察

①浪江町

【概要】

東日本大震災が発生し、それと同時に、東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生し、住民は避難生活を強いられ、原発から 20 キロ圏内の地域へは立ち入りの規制が出された。その後、除染活動による放射線量の減少に伴い、町ごとに区域再編が行われ、立ち入りの規制が徐々に緩和されている。

浪江町は 2013 年 4 月に区域再編が行われ、避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域の 3 区域に再編された。2014 年 9 月時点で、浪江町に立ち入るには許可書が必要であったため、福島大災ボラでは、浪江町から避難をし、現在は福島市内の仮設住宅で避難生活をしている熊田さんの協力のもと、視察を行った。

【日時】　9 月 12 日(金)

【参加人数】
- 福島大学　3 名
- 高知大学　3 名
- 鹿児島大学　6 名
- 福島大学行政政策学類教授　鈴木典夫
- 熊田 伸一さん(案内人)

【視察場所】
- 請戸地区
- 浪江駅周辺
- 大堀地区
- 浪江中学校

【参加者の声】

◯岡田 千裕(高知大学 2 年生)

2014 年 9 月、私たち高知大学の学生は、立ち入りを制限されていた浪江町への視察の機会をいただきました。人気のない駅、傾いたままの家、ひび割れた道、遠くから海が見えるほど平坦になった土地。新聞やテレビで被災地の状況は知っているつもりでいましたが、いまだ震災の爪痕を残したままの町の様子に衝撃を受け、言葉を失ってしまいました。それと同時に、この光景を伝えていかなくてはならない、風化させてはいけないという思いが込み上げてきました。

東日本大震災から数年が経過し、メディアに取り上げられる機会も目に見えて減っています。こんなときだからこそ被災地の今を知ってもらうことが大切だと思います。この経験を意味のあるものにするためにも、微力ながらも声をあげ、今回得たものを発信していきたいです。

【活動写真】

請戸地区　集められたガレキ

請戸地区　熊田さんのお宅跡付近

JR 浪江駅前　無人の商店街

常磐線、使われなくなった線路

大堀地区側溝の線量は 50μSv

浪江中学校 2011 年 3 月の卒業式のまま

②田村市都路地区

【概要】

東日本大震災が発生し、それと同時に、東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生し、住民は避難生活を強いられ、原発から 20 キロ圏内の地域へは立ち入りの規制が出された。その後、除染活動による放射線量の減少に伴い、各自治体ごとに区域再編が行われ、立ち入りの規制が徐々に緩和されている。

田村市都路地区では、地区の一部が原発から 20km 圏内にあり、立ち入りが制限されていたが、2014 年 4 月 1 日 0 時に避難指示が解除された。しかし、避難指示解除から約 1 年が過ぎた 2015 年 2 月時点で、帰還した住民は約 4 割に留まるなど、住民の帰還が進んでいないのが現状である。

そのような中、福島大災ボラでは、被災者の見守りやケア、地域おこし活動の支援等「復興に伴う地域協力活動」を通じ、コミュニティの再構築を図ることを目的として設立された『田村市復興応援隊』や、『一般社団法人 ふくしま連携復興センター』と協力し、今後都路地区で新たな活動を展開することを考えている。今回の視察では田村市復興応援隊の協力のもと、都路地区の現状や住民の声を聴くことを目的とし、3 名が参加した。

【日時】　2014 年 7 月 24 日(木)

【参加人数】
- 福島大学災害ボランティアセンター　2 名
- 福島大学行政政策学類教授　鈴木典夫
- うつくしまふくしま未来支援センター職員　1 名
- 田村市復興応援隊　2 名
- 一般社団法人ふくしま連携復興センター　3 名

【視察場所】
- 田村市都路地区

【参加者の声】

〇伊藤 航(地域政策科学研究科 1 年)

私自身、今回の視察で初めて田村市都路地区を訪れた。避難指示が解除され、住民が帰還することの許された地域ではあるが、実際に都路に戻ったという人は少ないというのが現状である。今回は住民の方と直接触れあう機会はありませんでしたが、都路地区を支援している『田村市復興応援隊』の方の話によると、住民の帰還がなかなか進まず、特に若い世代が全くいないので、町の活気があまり感じられないということでした。確かに、平日の昼であったけれど、町の中で

はほとんど人の姿も見られなかったし、子どもを含めた若い世代の姿はなかったように思う。

一方で、今回の視察では、都路地区の豊かな自然を感じることができた。応援隊の方の案内で現在は休耕地となっている畑と、古民家を見せていただいた。どちらも住民の方が、大学生が使ってくれるのならと貸してくださるということでした。

今後、都路をフィールドにして活動を展開していくにあたり、現地に行きその様子を知ることができたのはとてもよい機会になった。できるだけ早く住民の方とも触れ合う場を設け、住民と一緒になっての活動を考えていきたい。

【活動写真】

視察の様子

畑の様子

古民家の様子

小川の様子

③新潟県長岡市山古志

【概要】

2004 年 10 月に新潟県中越地震が発生した。当時、福島大学の学生は震災発生直後からボランティアに参加し、地震による山崩れのため全村避難を余儀なくされた山古志村(当時)の支援活動を展開し、住民との交流を深めていった。

中越地震から 10 年が経った今年、被災地連携活動として、同じく東日本大震災で全村避難を経験している飯舘村の住民と山古志住民との交流会の開催を目指した。また、現地を訪れるにあたり、被災から 10 年経った被災地の復興状況の視察、帰還した住民に話を聞くことも目的とした。

【視察日時】　2014 年 11 月 14 日(金)、15 日(土)

【参加人数】　・福島大学災害ボランティアセンター　3 名
　　・福島大学行政政策学類教授　鈴木典夫

【視察場所】　・新潟県長岡市山古志(旧山古志村)

【交流会の開催】

・日時　2014 年 11 月 16 日(日)
・場所　松川工業団地第一仮設住宅
・内容　飯舘村と旧山古志村住民とのふれあい交流、やまこし汁の振る舞い

【参加者の声】

〇深谷 怜(行政政策学類 1 年)

山古志村へ行き印象深いのは、崩れた山がまだ当時とほぼ同じ状態であったことです。テレビで見たことのある光景を自分の目で直接見ることによって、私の中で中越地震が現実味を帯びました。また、現在で元通りのように見える棚田も地震後の地すべりの影響で一部を除きほぼ新しくなったことを知りました。中越地震の悲惨さを初めて知りました。

一方で、震災当時典夫先生も協力した仮設住宅に住んでいた方のお話を聞くことができました。「今年こどもが産まれるんです」、「もうそんな年になったのか」など時間の流れの早さを感じる中、「今でも当時の仮設での思い出は忘れない」、「一緒に遊んだり、勉強を教えてくれたりした福大には感謝してます」など心のつながりの強さも感じました。

何年たってもその人の記憶に残るということは今私たちが行っている仮設で

の活動も同じことだと思います。改めて私たちの活動の意義について考えさせられました。

　また、東日本大震災から 4 年が経過し風化されつつあるということをよく聞きますが、その前に山古志村などの別の災害で被害を受け完全な復興に至っていないところもあるのが現状です。いろんな意味で山古志村に行けたことはいい経験になりました。

【活動写真】

・視察の様子

・交流会の様子

2. 仮設住宅・民間借上げ自治会への支援活動

【概要】

未だ福島県内の仮設住宅は、自分たちの土地に戻れる見通しが立っていない現状がある。福島大学災害ボランティアセンターでは 1 年目はコミュニティ形成の支援、2 年目は自治会の自立の支援を主な活動理念としてきた。3 年目は、今までの理念を継続しつつ、支援を行ったりすることでより住民と学生との交流を深めていくことを行った。4 年目になると、仮設住宅に住まわれている住民の減少により、さらに住民の孤独化が進んでいった。このような問題の要因として、4 年目となり仮設住宅から復興支援住宅への転居をする住民が多くなり、今まで築いてきていた隣人とのコミュニティの喪失が発生したことが挙げられる。また、転居増加による自治会の運営する力が弱まってしまったことによるイベントの減少・コミュニケーションの減少も挙げられる。そのため、今までは仮設住宅でイベントが行われるときには隣人の勧めなどにより、外に出ていた人たちが、隣人が復興支援住宅に移動したことにより、外出機会が無くなり、人と接する機会が減少し、仮設住宅の中でこもってしまっているということが発生した。そういった問題点を解決するためには、継続的な支援を行っていくこと、そして住民のニーズに応えていくことが必要であると私たちは考え、地元の大学ということもあり、仮設住宅に何度も訪れ、仮設住宅の住民とのコミュニケーションを図り、イベントや住民のニーズに応えた活動を行うことによって、学生と住民のつながりや住民と住民同士のつながりの再構築をしていこうと考えた。

季節活動として、春は花見会や親睦会、夏は夕涼み会、秋は芋煮会、冬はクリスマス会や望年会など、季節ごとのイベントを仮設住宅の人々と共同で行い、仮設の中での住民同士のつながりを進め、住民間のコミュニケーションづくりを進めた。

恒常的な活動として 1 年目から継続して行ってきた足湯は、4 年目となった現在も住民との会話を大事にする傾聴ボランティアとして続けており、仮設住民の心の拠り所を目指して活動をしている。心の拠り所とともに、4 年目の今年は足湯を行うことにより、住民たちが日常抱えている問題をより親身にとらえ、その抱えている問題をどのようにしていくかを考えるということを活動の目標として行った。

さらに、今年度はこれらの活動の他に住民のニーズに応えるために、お料理教室や、(株)エクシングから提供されたエクササイズコンテンツ『JOYBEAT』 を用いた健康体操サロンなどを新たに行った。

2-1. 季節イベント

【概要】

4 年目を迎えた仮設住宅では、復興公営住宅などへの転居が進み、4 年間で築かれてきたコミュニティの喪失や再構築の必要性が出てきた。

福大災ボラでは毎年、四季折々に合わせた季節イベント活動を実施し、仮設住宅や民間借上げ自治会の自治活動を促進、仮設住宅のにぎわいづくりを進めてきた。今年度は、上記のような状況も踏まえ、より多くの住民にイベントに参加してもらえるよう、自治会と協力して広報活動に力を入れたり、学生が積極的に住民に声がけをするなどの工夫をした。

その結果、これまではなかなか顔を出さなかった住民がイベントに顔を出すようになったり、入居住民が減ったところでも、これまでと変わらないようなにぎわいを見せるなど、一定の効果を得ることができたように思える。一方で、相変わらずそういったイベントに顔を出さない人もまだまだおり、これまで以上に仮設住宅に足しげく通い、そういった住民との日常の交流の機会を多く持つことも大切になると考えられる。

【内容】

春季	夏季	秋季	冬季
・お花見会	・夏祭り	・芋煮会	・クリスマス会
	・夕涼み会		・望年会
随時			・新年会
・親睦会、交流会			

【活動日時・活動場所・活動人数・プレイスリーダー】

春季

・4 月 19 日(土)：四季の里(富岡町民間借上げ自治会対象)：11 名：川村 遼

夏季

・8 月 3 日(日)：宮里仮設：2 名：久保 香帆
・8 月 23 日(土)：南矢野目仮設：10 名：菅野 勇希
・8 月 24 日(日)：旧松川小跡地仮設：15 名：佐藤 俊一

秋季

・10 月 13 日(月)：笹谷東部仮設：14 名：小島 望
・10 月 19 日(日)：上野台仮設：13 名：菅野 勇希

・10 月 25 日(土)：南矢野目仮設：15 名：佐藤 翔太
・10 月 25 日(土)：あづま温泉(富岡町民間借上げ自治会対象)：8 名：佐藤 俊一
・11 月 8 日(土)：北幹線第一仮設：14 名：佐藤 俊一

冬季
・12 月 14 日(日)：松川第一仮設：14 名：山形 智春
・12 月 22 日(月)：藤田駅前仮設：6 名：佐藤 俊一
・12 月 25 日(木)：笹谷東部仮設：13 名：小島 望
・12 月 28 日(日)：旧松川小跡地仮設：9 名：佐藤 俊一
・1 月 11 日(日)：杉内仮設：12 名：佐々木 海都

親睦会・交流会
・4 月 29 日(火)：上野台仮設：10 名：佐藤 俊一
・6 月 22 日(日)：笹谷東部仮設：18 名：小島 望
・7 月 11 日(金)：富岡町さくらサロン：3 名：川村 遼
・10 月 26 日(日)：杉内仮設：20 名：伊藤 航
・11 月 16 日(日)：松川第一仮設：11 名：大橋 矢
・11 月 17 日(月)：藤田駅前仮設：3 名：佐藤 俊一
・12 月 24 日(水)：富岡町さくらサロン：9 名：佐藤 俊一
・1 月 29 日(木)：富岡町さくらサロン：4 名：佐藤 俊一
・3 月 23 日(月)：藤田駅前仮設：4 名：佐藤 俊一

【活動内容】
春季
親睦・懇談、ビンゴ大会

夏季
親睦・懇談、流しそうめん、焼き鳥、すいか、レクリエーション、露店(金魚すくい、水ヨーヨーつり、かき氷、わたあめ、ポップコーン)、花火補助

秋季
親睦・懇談、芋煮、おにぎり、焼き鳥、焼き芋、わたあめ、宮崎地鶏、ビンゴ大会、折り紙

冬季
親睦・懇談、ケーキ作り、プレゼント配布、手遊び、餅つき、カラオケ

【参加者の声】

○高橋 航平(人間発達文化学類 2 年)

当日は 4 月中旬ながらも天気があまり優れず、晴れ時々曇りといった天候で少し肌寒いような気温でした。住民の皆さんの体調に気を付けながら、親睦会を行っていましたが、学生と富岡の方々がとても和やかにお話をすることができて、いつの間にか天候も良くなっていきました。私がとても印象に残ったのは、自治会の方と、学生の笑顔が絶えなかったということです。学生の中には初めて活動に参加したという人もおりました。しかし、当日親睦会に参加したみんながみんな笑っていた、笑顔だったということが私にはとても印象的でした。親睦会が終わった時には、一人の方が、私の手をにぎり「高橋さん、ありがとう」と言ってくださいました。このことは大変私にとっては喜ばしいものでした。今後も、私が活動をしていく際には参加してくれた方から「ありがとう」と言ってもらえるようなそんな活動を目指していきたいと思いました。この親睦会は色々な意味でとても大切な活動だったのだと思います。

○阿部 飛香莉(行政政策学類 2 年)

8 月 24 日に、旧松川小跡地仮設で行われた夕涼み会に参加しました。会場設営のあと、仮設住宅のお母さん方に浴衣の着付けをしていただいたのですが、布の柄を褒め合ったり、他愛のないおしゃべりをしたりと、ちょっとした女子会のようで楽しかったです。

夕涼み会が始まるとたくさんの人が集まり、歌に踊りに大賑わいでした。中でも、「いいたて愛」と書かれた飯舘村の旗が大きく掲げられた瞬間が印象的でした。故郷から離れても、どのような時でもふるさとは力強く胸の中に生き続けているのだということを改めて感じさせられた 1 日でした。

○猪野 令奈(人間発達文化学類 2 年)

つきあがったお餅をあんこときな粉の 2 種類の味にするために、あんこを鍋で温めて砂糖で味を調整していたとき、仮設の方が手伝ってくださり、「塩を加えると甘みが増すんだよ」と教えてくださいました。私は甘くなくなってしまうのではないかと思いましたが、実際はとても甘くておいしく仕上がりました。今ではお料理するときにはお砂糖にお塩を少し加えています。

夜になり学生がサンタやトナカイの衣装を着て、子どものいるおうちまでプレゼントを届けにいきました。子どもたちは驚いていましたが本当のサンタさんが来たと思い喜んでいる子や、プレゼントに嬉しそうな顔を浮かべている子の姿をみて、自分は今日活動を行えてよかったと感じました。また来年もサンタさんになって、子どもたちにプレゼントを届けに行きたいと思いました。

【活動写真】

春・お花見会

春・親睦会

夏・夕涼み会

夏・夕涼み会

秋・芋煮会

秋・芋煮会

冬・クリスマス会

冬・新年会

2-2. 足湯活動(足湯＋αの活動)

【概要】

2011 年 3 月の東日本大震災以来、福島県内各地に避難所が開設された。中でも、福島県内最大の避難所となった、郡山市のビックパレットふくしまの避難所では、『FUKUSHIMA 足湯隊』が結成され、避難所での足湯活動が行われていた。そして、2011 年 5 月に福大災ボラが設立されると、足湯活動のノウハウは福大災ボラにも伝わり、避難所や仮設住宅での足湯活動が開始された。

4 年目を迎えた今年度は、4 月に NHK『福島をずっとみている TV』にて、福島大災ボラの足湯活動について特集を組んでもらい、改めて足湯活動の意義について考える機会となった。

そして、今年度の足湯活動では「足湯＋α」というものを目指した。普段の足湯活動にプラスして、折り紙や、季節の果物を持参しみんなで食べる、タブレットなど、足湯だけではないサロン活動をすることができた。来年度以降もこうした足湯＋αの活動を継続し、足湯活動をよりよいものにしていきたい。

【活動写真】

折り紙

持参したスイカでおやつ

塗り絵

カラオケ

2-3. 元気体操サロン

【概要】

福島大災ボラの仮設住宅での活動も 4 年目に入り、これまで足湯、季節イベント活動などの多岐に渡る活動を行ってきた。しかし、そのような活動を通しても、住宅の外に出たり、イベントに顔を出してくれないような人もまだまだたくさんおり、コミュニティを構築できていないおそれのある住民もいる。そこで、今年度からは活動のバリエーションを増やし、なかなか顔を出してくれない人たちも新たに参加できるような活動を目指した。

その一つに元気体操サロンがある。福大災ボラでは(株)エクシングより、エクササイズコンテンツ『JOYBEAT』を提供してもらっている。JOYBEAT とは、カラオケのように自分で好きな曲を選び、それに合わせて運動ができ、また、参加者のレベルや運動量、レッスンの目的に合わせて選べるバリエーションも用意されている。これを仮設住宅で使うことにより、家に引きこもりがちな住民の運動不足解消や、家に閉じこもってしまうという状況の改善につながり、住民の健康向上や仮設住宅全体の元気にもつながることが期待できる。

実際に元気体操サロンを実施した住民からは、「学生さんと一緒に楽しく運動できる」、「みんなで集まって、笑いながら過ごす時間ができた」など好評の声をいただき、中には週 1 回のペースで住民が定期的に体操の時間を設けている仮設住宅もある。また、学生からも「楽しい」「住民の方と一緒に盛り上がるいい機会になる」という声が聞かれ、双方にとって良い効果が生まれていると考えられる。

今後は元気体操サロンを実施する仮設住宅をさらに増やし、より多くの人たちに提供していきたい。

【JOYBEAT 設置までの流れ】

・6 月 6 日(金)　：(株)エクシング担当者との打ち合わせ、JOYBEAT 体験会
・6 月 20 日(金)　：杉内仮設自治会との打ち合わせ、JOYBEAT 設置
・12 月 10 日(水)：安達運動場仮設自治会との打ち合わせ、JOYBEAT 設置
　　塩沢仮設自治会との打ち合わせ、JOYBEAT 設置
・3 月 16 日(月)　：宮里仮設自治会との打ち合わせ、JOYBEAT 設置
・3 月 18 日(水)　：石神第一仮設自治会との打ち合わせ、JOYBEAT 設置

【活動日時・場所】

・6 月 29 日(日)　：杉内仮設住宅：12 名
・11 月 26 日(水)：安達運動場仮設：8 名

・11 月 29 日(土)：塩沢仮設：10 名
・12 月 3 日(水)：安達運動場仮設：3 名
・12 月 14 日(日)：松川第一仮設：14 名
・3 月 16 日(月)：宮里仮設：4 名
・3 月 18 日(水)：石神第一仮設：4 名

【JOYBEAT 設置仮設】
・二本松市・杉内仮設住宅(毎週月曜日 PM に定例で実施)
・二本松市・安達運動場仮設住宅(毎週水曜日 PM に定例で実施)
・二本松市・塩沢仮設住宅(毎週水曜日 PM に定例で実施)
・会津美里町・宮里仮設住宅
・本宮市・石神第一仮設住宅

【活動写真】

JOYBEAT 講習会

元気体操サロンの様子

元気体操サロンの様子

元気体操サロンの様子

3. 子ども・家族支援(キャンプ活動)

3-1. リフレッシュ体験ツアー

【概要】

今夏で 7 回目、今冬で 8 回目の開催となるリフレッシュ事業だが、ニーズが変わりつつあることを実感している。震災後 4 年目となり、当初の震災および原発事故後の不安・抑うつ感の解放という目的から、今回は、様々な社会体験、集団体験を通して子どもたちが「もっと力強く」成長することを目的とし、名称も『リフレッシュサマーキャンプ』から『リフレッシュサマー体験ツアー』と、『リフレッシュスキーキャンプ』から『リフレッシュスキー体験ツアー』とそれぞれ変更して開催した。

①ふくしま子どもリフレッシュサマー体験ツアー

【連携】

・日本福祉大学災害ボランティアセンター
・一般社団法人　Bridge for Fukushima

【協力】

・JTB 東北法人営業福島支店

【場所】　愛知県知多半島　他

【開催日時】2014 年 8 月 20 日(水)～23 日(土)

【参加スタッフ】

・福島大学生　18 名
・日本福祉大学学生　16 名
・福島大学行政政策学類教授　鈴木典夫
・JTB 東北法人営業福島支店　黒田萌花さん（添乗員）
・熊田法子さん（看護師）

【助成金】

・あぶくま学生支援基金
・ふくしまキッズ夢サポート基金

【行程】

8 月 20 日（水）	9:00～	県内各地出発（福島・いわき・会津・郡山）
	13:00	愛知到着
	14:00	名古屋城　見学
	17:30	ビーチハイク
	19:30	班活動仲間づくり（ビンゴ大会）
8 月 21 日（木）	9:00	地引網・海水浴（内海海水浴場）
	16:00	バーベキュー・花火（小野浦キャンプ場）
8 月 22 日（金）	10:00	常滑陶芸体験（角山陶芸）
	13:00	めんたいパーク常滑　見学
	15:00	名古屋港水族館　見学
	17:30	フェリー乗船・名古屋港出発
8 月 23 日（土）	16:40	フェリー仙台港到着
	18:30～	各乗車地にて解散

【参加者の声】

○大橋 矢(人間発達文化学類 3 年・キャンプリーダー)

今回リーダーとして全体の統括をした。前年度とは名称も中身も変え、より体験的な面を強くしたこのキャンプは、子どもたちに将来を強く生きる「力」を育ませることを目指して企画・運営を行った。自分自身の目標は、子どもにとって夏休み最後のイベントになるであろうこのキャンプが、子どもたちにとってこの夏一番の思い出になるようにということであった。キャンプ中、子どもたちは見たことのないもの、したことのない体験に目を輝かせ、取り組んでいた。地引網体験にて生きている海の生き物を恐る恐る触る子や、誇らしげな様子で堂々とわしづかみにする子、海水浴では、「まだ、もっと泳ぎたい！」と何度も言ってきた子、飯盒炊爨で慣れない火起こしに戸惑いながらも学生と協力して火を起こすことのできていた子、陶芸体験に悪戦苦闘する子、初めてのフェリーに興奮する子、このキャンプで子どもたちは多くの「人」に会い、様々な「体験」を行った。その一つ一つがこの福島県で成長していく「力」になっていったように思える。そして福大災ボラのスタッフは子どもたちの「生活リーダー」として役割を十分に果たしていた。時には、仲の良い兄弟のようにふざけあい、仲よく生活し、時には生活リーダーとして子どもたちの生活の見本として、行動することができていた。子どもたちは短い時間でありながら子どもたちとしっかりとかかわり、「力」を与えていた。そして、このキャンプの終わりにある子どもが「夏休みで一番楽しかった！」と言ってくれた、この言葉にすべてが詰まっているよ

うに感じた。
子どもたちの「リフッレッシュ事業」として放射能の影響が少ない、県外に連れて行く様相を持っていた以前のキャンプから、一歩進んだ形として、今回のキャンプは行われた。これは、ただの保養キャンプでなく、様々な「体験」を内包した、このキャンプにしかできないことであったろう。今回も、JTB 東北福島支店の方々や、受け入れ先として名乗りを上げていただいた日本福祉大学災害ボランティアセンターの方々との活動も 5 回目となり、様々な面でご協力いただいた。子どもと学生のどちらも充実したこの夏一番のキャンプになったと思う。

○奥村 香織(人間発達文化学類 3 年)
私自身、リフレッシュキャンプへの参加は 4 回目であった。今回も、子どもたちのきらきらした笑顔をたくさん見たいという思いを胸に抱き初日を迎えた。何度か参加してくれている子どもたちも、初めて参加してくれた子どもたちも最初は慣れない環境に少し緊張した面持ちであった。しかし、新幹線で愛知に到着した頃にはすでに、近くに座っていた友達や班の学生と楽しそうに笑い合う姿が見られた。4 日間の行程が進んでいく中で、子どもたちは共に笑い、共に喜び、そして時には気持ちをぶつけ合うこともあった。そんな子どもたちの姿は、一人一人だった子どもたちが本当の仲間になっていく姿であるように感じた。このサマー体験ツアーの 4 日間は、海水浴や陶芸体験、水族館など活動が盛りだくさんであった。中身のぎゅっと詰まった 4 日間は、友達や学生との絆が生まれたことにより、さらに中身の濃いものとなったのではないかと感じる。震災で大きな被害を受けた福島で育ってきた子どもたちであるが、4 年目となった今、多くの人々は福島の子どもたちにどんなイメージを抱いているのだろうか。私は、このサマー体験ツアーを通じて、実際に子どもたちと共に過ごし、福島の子どもたちが元気で明るく前向きに進んでいるということに気付いた。このことがより多くの人々に伝わっていってほしいと強く願っている。

○吉田 沙弥(人間発達文化学類 1 年)
私は、当時災害ボランティアセンターの活動に数回しか参加していなく、もっと参加したいと思っていました。そんな時に先輩からこのキャンプのお誘いがあり、大好きな子ども達と一緒に楽しみながら活動ができることに魅力を感じ、参加しようと決意しました。キャンプ当日になり、各集合場所で続々と集まる子どもたちを見て最初に思ったのは、こんなに大人数の子ども達を学生の力で 4 日間見るなんて、自分にはできるか不安でした。しかし、私も 1 年生とはいっても、子ども達からしたら頼れるお姉さんであると自覚し、リーダーをはじめとす

る先輩の姿を見て、積極的に子ども達と触れ合っていくことが大切だと気が付きました。子ども達は初めての場所で、福島では体験できないようなことを通してたくさんのことを吸収できたと思います。中でも印象的だったのは、海水浴やBBQや花火などの野外活動で、無邪気に遊ぶ姿や、初めての陶芸体験や地引網体験を興味津々に真剣なまなざしで取り組む姿でした。そして、私は、福島ではできないことを思いっきり楽しむ子ども達と共に過ごしているうちに、最初に感じた不安はいつの間にか消えていました。この 4 日間で子ども達にはたくさんのことを学んで欲しかったのですが、私たち学生を慕って、頼ってくれた子ども達のおかげで、私も多くのことを学ぶことができました。子どもにとっても私たち学生にとっても中身の濃い、最高の夏の思い出になったと思います。

○加藤 愛(行政政策学類 1 年)

私は、今回初めてキャンプに参加しました。子どもたちのリフレッシュのためや楽しませてあげたいという思いよりは、自分がキャンプを楽しみたいという軽い気持ちでこのキャンプに参加しました。それから何度か打合せを重ねていくうちに、リーダーや先生の話、このキャンプをする目的を聞いているうちに子どもたちを楽しませたいという思いが私の中で大きくなりました。最初はどんな子どもが来るかも分からない状態で、自分がどこまでできるかも分からず不安が大きかったです。しかし、当日になり子どもたちと対面したときに緊張している子どもの顔を見て、「あ、私と同じで緊張しているんだ！」と思うとなぜか気が楽になりました。そして子どもたちと打ち解けていくと、子どもたちはたくさんの表情を見せてくれるようになりました。“自分はこんなこともできるんだよ”と誇らしげに学校であった話をしたり、私のことをまるで友達かのように楽しそうに話しかけてくれたり、笑ったり、無邪気にはしゃいだり、暑い中歩き疲れて子どもらしく駄々をこねたり、真剣な表情で陶芸体験や地引網漁をしていました。私はそんな子どもたちの様子をみて、私自身もすごく楽しくて、もっと楽しんでもらいたい、たくさん笑って欲しいと強く思いました。子どもたちの表情は 1 日 1 日経過するごとに少しずつ凛々しくなっているような気がして、私が言わなくても行動してくれるようになっていました。子どもたちと一緒に楽しんでいるとキャンプ中の行事ひとつひとつがとても早く過ぎていきました。キャンプ最終日には子どもたちはお父さん、お母さんに会い、帰ってきたよと誇らしい表情をしたり、私たちとの別れを惜しんで泣いてくれたりさまざまでした。どの表情を見ても私は、「このキャンプをやり抜くことができてよかった。」、「私自身このキャンプに参加できてよかった。」と心から思うことができました。たくさんの子どもの笑顔が見ることができて、私たちもその笑顔を見て笑顔になって、すごく楽しくて思い出の詰まった素敵なキャンプでした。

【活動写真】

ビーチハイク

海水浴

陶芸体験

地引網体験

明太ミュージアム見学

名古屋城観光

名古屋水族館

集合写真

②ふくしま子どもリフレッシュスキー体験ツアー

【連携】

・一般社団法人 Bridge for Fukushima

【協力】

・JTB 東北法人営業福島支店
・関西大学スキー同好会「ZOO」OB 会

【場所】　長野県　黒姫高原

【開催日時】　2015 年 3 月 27 日(金)～29 日(日)

【内容】

・スキー、そり遊び、レクリエーション
・工場見学、体験

【参加スタッフ】

・福島大学生　15 名
・福島大学行政政策学類教授　鈴木典夫
・JTB 東北法人営業福島支店　栗原千明さん(添乗員)
・関西大学スキー同好会「ZOO」OB　7 名
・熊田法子さん(看護師)

【助成金】

・あぶくま学生支援基金
・ふくしまキッズ夢サポート基金

【行程】

3 月 27 日（金）9:10 いわき駅～11:10 会津アピオ(1 号車)
7:15 相馬駅～9:00 福島駅～10:15 郡山駅(2 号車)
11:30　新鶴 PA にて合流・出発式
13:30　新潟「せんべい王国」せんべい作り体験・工場見学
17:30　長野県　黒姫ライジングサン到着

3 月 28 日（土）9:30～11:30　スキー
13:30～15:30　スキー
15:30～16:30　そり遊び
19:30～20:30　レクレーション

3 月 29 日（日）9:30～11:30　スキー
12:30～13:00　解散式
17:20 会津アピオ～19:10 いわき駅(1 号車)
18:30 郡山駅～19:40 福島駅～21:20 相馬駅(2 号車)

【参加者の声】
〇佐藤しおり(行政政策学類 2 年・キャンプリーダー)
私は、今回のリフレッシュスキー体験ツアーでリーダーを務めさせていただきました。この企画は、福島県内の小学 3～6 年生と一緒に長野県へ行き、3 日間スキーや雪遊びなどを思いっきり楽しもうというものでした。4 回目となる今回は、県内の小学生 42 名の参加のもと実施されました。このツアーには、子ども達の体を動かす機会にしたい、力強く前に進むために様々な体験をさせてあげたい、子ども同士のつながりを広げてほしい、家庭・学校だけでない集団の中で協調性を身に付けてほしい、参加することにより教育の機会にしてほしい、大学生と交わる中で将来の目標を見つけてほしい、といったたくさんの願いが込められています。個人的にも、「体をいっぱい動かし、心もいっぱい動かしてほしい」という願いを込めながら運営にあたりました。この願いは、まさに叶えられたと言っていいと思います。長野の大自然の中で、スキーや雪遊びなどを通して思いっきり体を動かし楽しむ姿は、きらきらとした笑顔に溢れていました。また、何度転んでも立ち上がる姿やあきらめない心、挑戦する勇気、初めて会う友達にも歩み寄ろうとする姿に、とても感動させられました。そうした子ども達の姿に、私自身心を動かされていたように思います。大人になるにつれていつの間にか忘れてしまっていたことを、子ども達の姿から思い出させてもらいました。そして、帰る頃には「楽しかった」「また来たい」という声を聞くことができ、リーダーとして心から幸せに感じました。
今回のツアーの実施に至るまでは、本当にたくさんの方々のご協力をいただきました。顧問の鈴木典夫先生や JTB 東北法人営業福島支店さん、関西大学スキー同好会「ZOO」の皆様、看護師として同行いただいた熊田さん、広報にご協力いただいた方々、福島大学生スタッフ、参加してくれた子ども達には、心より感謝御礼申し上げます。準備期間から、「どうしたらより子ども達に楽しんでもらえるか」を一緒に考え、当日もツアーのために最善を尽くしてくださった方々

の存在が、このツアーを成功へと導いてくれました。また、子ども達はキャンプ史上初の「忘れ物ゼロ」を達成してくれました。これは、とてもすごいことだと思います。そうした子ども達の協力も、このツアーでは欠かせないものでした。本当にありがとうございました。

今福島県は、新たな復興のフェーズへと進んでいます。それに伴い、こうしたリフレッシュ事業の目的や意味づけも変わってきました。よって、このような形でツアーを実施するのは、今回が最後となります。しかし、これからも福島の子ども達が力強く前に進んでいけるよう、子ども達の成長に寄り添い、笑顔のきっかけをつくっていけたらと思います。子ども達が大人になったとき、この 3 日間で見た風景、出会った友達や大学生、インストラクターさんの顔、触れた雪の冷たさ、うまく滑れたときの嬉しい気持ちなど、なにか印象に残ったことや体で感じたこと、心が動いた体験を思い出してもらえたら嬉しいです。

〇戸浪 今日子（行政政策学類 1 年・サブリーダー）

私は、以前別の子ども達の保養キャンプには参加した事がありましたが、リフレッシュスキー体験ツアーに参加するのは初めて参加しました。今回のキャンプでは、裏方班、スキーでは本部を担当しました。

この三日間は、とても大変でしたが、それ以上に私自身が子どもたちとの関わり合いの中で多くの事を学び、楽しんだ思い出に残るキャンプでした。自分はちゃんとこのキャンプの力になれているのか、自分に出来ることがもっとあるのではないかと不安はありましたが、キャンプメンバーの多くのサポートやリードのおかげで、自分自身もキャンプを楽しむ事が出来ました。

キャンプ中は、私は班つきではないので、多くの子どもたちに話かけ、仲良くなろうと心掛けました。子どもたちと関わっていく中で、最初は話かけても緊張してあまり話さなかった子も、しだいに私や周りの子とも話すようになったり、子どもたちが思いっきりスキーやゲームを楽しむ姿は、とても輝いていて、今でも忘れられません。また、子どもたちの方から話しかけてきてくれたり、本部待機をしていた私に「一緒にスキー滑ろう！」「楽しいよ！」と声をかけられた時はとても嬉しかったです。たくさんの子ども達と関われて良かったです。

今回のキャンプでは、キャンプメンバーに多くの事を学びました。子どもとの関わり方も、小さな心配りから、楽しむ時は一緒に楽しみ、時にはしっかりと注意し、子ども自身に考えさせる事も大切であると改めて感じさせられました。また、スキーの体験や移動にいたるさまざまの場面での子どもの安全確保は必要不可欠であり、周囲の状況を考え、常に気を配りながら子どもたちを見守る事を教わりました。

私は、このキャンプに参加出来て本当に良かったと思います。何より子ども達

から、“楽しかった”という声が聞けてとても嬉しかったです。また、このキャンプを通してつながりが出来た子ども達、キャンプメンバー、JTB の栗原さん、関西大学スキー同好会 ZOO の皆様など、たくさんの方と出会えた事に感謝します。この三日間の経験をまた次にいかし、さまざま事に挑戦していきたいです。本当にありがとうございました。

○本多 礼諭（人間発達学類 2 年）

震災から 4 年目を迎えた今年の『ふくしま子どもリフレッシュスキー体験ツアー』は、子どもたちの成長と笑顔をたくさん見られた素晴らしい三日間となった。初日から、子どもたちのうきうきした顔や興奮している姿が見て取れ、どれだけこのキャンプを楽しみに待ち望んでいたかが伺えた。学生も子どもたちが本当の意味での「リフレッシュ」を三日間の中で感じることが出来るように精一杯サポートしていきたいと意識を高く持ちながらキャンプを始めることが出来た。バスでの移動時間が長かったが、時間が経つにつれ、子どもたちは自分から新しい友達に自己紹介したり、去年のキャンプの経験を話したり、スキーについて話したりと楽しみながら過ごすことが出来たようであった。

キャンプのメインとなるスキーは、天気に恵まれとても良い環境で取り組むことが出来た。インストラクターの ZOO のみなさんの指導の下、自分のレベルに合ったコースの中で、子どもたちは楽しみながらも真剣にスキーに臨む姿が見られた。私は、初心者コースのサポートとして参加した。初心者コースはゲレンデ自体初めての子、スキー板を履いたことすらなかった子たちばかりであり、初めは緊張と不安で顔も引きつっていた。しかし、スキーをする上で基本的なことから丁寧に指導してくださったこともあり、自信を持って少しずつ滑れるようになっていった。結果的に、1 日でリフトから降りて下ることが出来るようになるまで成長することが出来た。一言で成長というのはもったいないほど、子どもたちの飲み込みの速さには驚きと感動があった。子どもたちも達成感や誇りに満ちた様子であった。

今回のスキー体験ツアーでは、子どもたちの体も心も動かすことが出来たと考える。初めてスキーに挑戦する勇気、よりレベルアップするための技術など、スキーの中で得られたことはもちろんのこと、新しい友達とのかかわりの中で子どもたちはたくさんのことを学ぶことが出来たのではないだろうか。私自身も、子どもたちからたくさんのことを教わった。中でも「あきらめない心」は、初心者コースにいたからこそ感じられることである。何度転んだとしても立ち上がり、しっかり滑れるように努力し、あきらめない姿はスキーだけではなくこれからの人生に必要不可欠なことである。子どもたちとそのような目に見えない「心」を共有できたことは意味のあることだったのではないだろうか。今回の

スキーキャンプが子どもたちにとって良い思い出となっていればと考える。

○畠山 幸一（現代教養コース１年）

今回私はリフレッシュスキー体験ツアー、災害ボランティアセンターの活動に初めて参加させていただきました。生活班では 4 班、スキー班では中級クラスの 5 班を担当しました。何もかもが初めての事ばかりだったため、初めは不安の気持ちがとても強く、自分のような者が最後までやり切れるか役に立てるのか自信がありませんでした。しかし、キャンプのリーダーをはじめとして何度もキャンプに参加されている先輩方や同学年が優しく接してくれたおかげですぐに打ち解けることが出来た。説明会をはじめ、毎週ミーティングを重ねるたびにスタッフ全員の仲も深まりまとまりが出来ていった。

キャンプ初日、私は相馬から参加する子どもたちの迎えを鈴木典夫先生に同伴で行きました。子どもたちはとても元気で車中でも常に話をしていて、福島駅でバスに乗り換えてからも終始話をしていました。バスに乗り換えてからはキャンプネームを覚えてもらえるように子どもたちと話をするように努めました。班毎に分かれバスに乗ってからも初対面ではあるものの、私達大学生も含めうまく班の全員とコミュニケーションをとることが出来た。

スキーでは子どもたちのレベルごとに班がしっかりと分けられており、関西大学スキー同好会 ZOO の OB の方々の指導のもと、各々の班ごとにスキーを楽しむことが出来た。生活班と違いスキー班で初めて合わせる顔もあり、子どもたちは緊張をしていたが、三日目の午前のスキーでは仲良く会話する場面も見られた他、体調を崩す子の心配をする場面も見られた。私達大学生が想像していたのをはるかに超え、子どもたちが自らコミュニケーションを積極的にとる姿はとても印象的だった。生活班対抗のそりでは、自分の班以外でもすごく盛り上がり、いざ自分の班となると負けまいと補助の自分含め班のみんなで協力して楽しむことが出来た。レクリエーションでは班のみんなと協力することのほかに、猛獣狩りではみんなと一緒にレクが出来たのでみんなとの距離が縮まったと思われるのでとても良い企画だったと思う。

キャンプ最終日帰りのバスや福島駅での子どもたちとの別れはさみしかったが、子どもたちが口にしていた、またキャンプに来たい、また会おうね、という言葉を聞くことが出来て今回のキャンプは成功だったと思う。

今回が災ボラの活動初参加だったが、準備の段階からとても充実しており参加してとても良かった。活動していく中で見えた先輩方、同学年から受けた刺激を忘れずに、今回のキャンプを通してできた人との繋がりを大切にこれからも災ボラの活動に参加していきたい。

【活動写真】

スキー教室

生活班対抗そり遊びリレー

レクレーション（人間知恵の輪）

生活班ごとの夕食

ゲレンデにて集合写真

3-2. 第 2 回「集まれ！ふくしま子ども大使」

【概要】

昨年度から引き続き行われている活動であり、今年で 2 回目の開催となった。震災から 3 年が経ち、福島県内ではストレスを感じる環境の中にいる子どもがたくさんいる一方、震災に対しての風化は進んでいると感じている。そこで、福島県の子どもたちの健全な交友づくりをサポートするとともに、全国の子どもたちとの交流を図りながら、福島県を含めた全国の子どもたちに福島県の現状・良さや楽しさを伝えることを目的とし、このキャンプを開催した。

安全面を考慮してキャンプ地は会津地方とし、各活動場所の放射線量を事前に測定した。

またこの活動は、アサヒグループホールディングスとの『産学協同事業』であり、行程については JTB 東北法人営業郡山支店に協力をいただいた。

【開催日時】

2014 年 8 月 17 日(日)～8 月 20 日(水)

【活動場所】

活動場所：会津若松市内

宿泊施設：リステル猪苗代

【協力・共催】

・アサヒグループホールディングス

・JTB 東北法人営業郡山支店

・リステル猪苗代

・会津若松市内の観光施設

・大熊町扇町仮設住宅、大熊町松長近隣公園仮設住宅のみなさん

【活動人数】

〈学生スタッフ〉

福島大学 13 名、明治大学 2 名、関西大学 2 名、

高知大学 2 名、鹿児島大学 2 名　　計 21 名

〈参加者〉

福島 19 名、関東 1 名、関西 7 名、四国 5 名、九州 4 名　　計 36 名

【内容・行程】

8 月 17 日(日)

移動

はじめましてのつどい

8 月 18 日(月)

仮設住宅訪問（大熊町扇町仮設住宅、大熊町松長近隣公園仮設住宅）

会津観光（飯盛山散策、あかべこ絵付け体験、鶴ヶ城見学）

8 月 19 日(火)

檜原湖遊覧船・川遊び

学生企画ウォークラリー

飯盒炊飯・カレー作り

さよならのつどい

8 月 20 日(水)

移動

【参加者の感想】

《参加者からの作文より》

・福島ブロック／小 4 男子

「ぼくの学校は震災があってから放射能の数値が高いのであまりプールに入れませんでした。だから川遊びが一番楽しかったです。新しく鹿児島県のお友達ができたことが楽しくて、お別れのときは見えなくなるまで手をふりました。」

・関西ブロック／小 6 女子

「福島に来て一番嬉しかったことは、友達ができたことです。住むところははなれているけど、手紙を送ってやりとりしています。京都に戻ったときは福島の思い出を一日では話しきれませんでした。また福島県に行きたいなと思いました。」

・四国ブロック／小 5 女子

「南海大地震はいつ来るかわかりません。でも、この福島で経験して学んだことを生かしていきたいと思います。これから私がたくさん学んだことを、学校の人や友達、先生や地区の人たちにできるだけ多く伝えられた

らいいなと思います。」

【参加学生の声】

○小島 望(人間発達文化学類 2 年・キャンプリーダー)

全国の子どもたちが福島に集まり一緒の時を過ごすというキャンプは大変珍しいと思うと同時に、これほど意義のあるキャンプはないのではないかと感じる。

私だけではなく、もちろん子どもたちも多くを感じてくれた。全国の子どもたちが福島で遊び・生活することを通して仲良くなり、協力していく姿はとても印象的であった。その中で震災と向き合い、福島のリアルから何かを学びとろうとする子どもや、キャンプ後に体験したことを発信している子どもがいたりと、このキャンプの意図を読み取るかの様に行動してくれた子どもがたくさんいて大いに驚かされた。このキャンプが若い力に影響を与え、福島のことを全国にきちんと理解してもらう契機になると思う。

このひと夏の忘れられない思い出となった。子どもたちが見せた全国の隔たりを超えた笑顔は忘れられない。今後も継続して行われることを願っている。

○緒方 拓也(高知大学 3 年)

大使キャンプに参加した子ども達は、福島復興の布石である。彼ら彼女らが関心を持ったのかは定かではないが、少なくとも本企画は私を震え立たせてくれた。復興を目標とすると頭打ちとなりがちであるが、過去を受け止め、今をどのように楽しく、愉快に生き、過ごしていくのかを知り、考えることのできる内容でした。福島大学さんの企画とあれば、次回も是非参加させていただきたい。子ども達が刺激される様子は、私のエネルギーになる。

○西脇 有紗(関西大学 2 年)

福島のすばらしさを存分に知ることができるプログラムを通して、子どもたちと共に遊び、学び、成長することができたのではないかと感じました。この活動を通して出会った仲間同士が、再びどこかで出会い、将来は、共に福島の未来、日本の未来について考えることのできる仲間になれたらと思います。

○田所 貴秀(鹿児島大学 1 年)

このふくしま子ども大使を通して学んだこと、考えさせられた事は多々あります。それは私だけではなく小学生という多感な時期であった子ども達にも興味・関心を抱かせた活動になったでしょう。さらにその子ども達が自分の思いを発信していくことで当時の福島を忘れず、伝え広める事に繋がればと思います。

ふくしま子ども大使ではそのきっかけを作り、現地で学びと交流の機会を提供しました。福島大学が中心となり関係者がサポートし、他大生が全力で協力できたからこそ素晴らしい内容になったのだと思います。

【活動写真】

仮設住宅訪問

あかべこ絵付け体験

檜原湖遊覧船

川遊び

さよならのつどい

集合写真

4-1. 繋ぐ～KYOTOHOKU～(京都学生祭典)

【概要】

東日本大震災が発災した直後は、京都の学生もメディアを通して東北の現状や復旧・復興の様子を目にすることもあったが、3 年が経過するとそれもほとんどなくなり、東北の現状について全く知らない学生も増えてきた。そこで、主に京都市内でオリジナル創作おどりである『京炎 そでふれ！』を披露している京都学生祭典の学生たちは「震災への理解を深め、京都の人たちに発信していきたい」という想いから、『繋ぐ～KYOTOHOKU～』というプロジェクトを立ち上げ、福島大災ボラは活動のコーディネートを担い、2013 年 5 月に初めて開催した。

昨年度に引き続き 2 回目の開催となる今回は、『京炎 そでふれ！』の披露だけでなく、京都の郷土料理であるねぎ飯を振る舞うなど、よりいっそう住民との交流を図った。

【協力】　京都学生祭典実行委員会

【活動日時】　5 月 3 日(土)

【活動場所】　1 号車：笹谷東部仮設住宅、南矢野目仮設住宅
2 号車：松川第一仮設住宅、杉内仮設住宅

【活動人数】　福島大学：20 名　京都学生祭典：53 名　計 73 名

【内容】　『京炎 そでふれ！』の披露、ねぎ飯の振る舞い

【活動写真】

京炎 そでふれ！の披露

住民との交流・簡単バージョンでの総踊り

ねぎ飯の振る舞い

住民へのプレゼント

4-3. よさこい交流会(高知大学、にぎわいボニート)

【概要】

高知大学とのつながりは、2013 年 5 月に大槻知史准教授と高知大学生が福島に訪問する際のコーディネートを福島大災ボラが行った時から始まり、同年 9 月には高知大学生 11 名が仮設住宅でのよさこい披露や高知風そうめん、カツオのたたきの振る舞いなどの『高知サロン』を開催した。

今年度は、高知県のよさこい団体である『高知県青年にぎわいボニート』のメンバーが来福、仮設住宅での『よさこい交流会』を開催し、仮設住宅住民や学生との交流を図った。

【協力】　高知県青年にぎわいボニート

【活動日時】　9 月 2 日(火)

【活動場所】　北幹線第一仮設住宅、上野台仮設住宅

【活動人数】　福島大学：10 名　にぎわいボニート：4 名　計 14 名

【内容】　よさこいの披露、住民との交流会、高知風そうめんの振る舞い

【参加者の声】　山下 曜子(高知大学 1 年)

私は初めて東北に訪れましたが初めての感覚はありませんでした。2011 年 3 月 11 日以来、毎日のようにテレビで見ていたからかもしれません。しかし、その報道も 3 年半も経てば減っているのが現状です。そのせいか東北の今の状況を把握しておらず、最初に訪れた閖上地区では言葉を失いました。3 年半の月日で復興が進んでいると思っていたからです。未だ遠く先の海が見えるほど真っ平らな土地が広がっていました。私は進んでいない復興について少しでも報道してほしいと思い、また今どうなっているかは実際に自分の目で見てみないと分からないと感じました。

その後、仮設住宅にお邪魔させていただきましたが、みなさんすごくイキイキしていらっしゃいました。福島大学災害ボランティアセンターのみなさんと一緒に練習したよさこいを披露し、また高知風素麺を一緒に食べとてもにぎやかな時を過ごすことができました。仮設住宅のみなさんがこの時を心待ちにしていたと話してくださりとても嬉しかったです。お盆に盆踊りを開催したそうで、あの震災から何年経っても気持ちが薄れるばかりか、年々大きくなっているよ

うでした。本当に短時間だったので思うようにお話しすることは出来ませんでしたが「また会いに来たい」そう思える時間でした。

案内してくださった福島大学災害ボランティアセンターのみなさま、美田園仮設住宅のみなさまありがとうございました。また来年もお会いできることを楽しみにしています！

【活動写真】

よさこいの披露

集合写真

住民との交流

高知風そうめんの振る舞い

よさこいの披露

学生へのプレゼント

4-4. 鹿児島サロン(鹿児島大学)

【概要】

2013 年 12 月に福島大災ボラ顧問の鈴木典夫教授らが鹿児島大学にて、災害ボランティア講演会を開催した。その講演会に参加した鹿児島大生が 2014 年 3 月には鹿児島大生が来福し、足湯活動に参加したり、8 月には『集まれ！ふくしま子ども大使』に九州ブロックのパートナー校として参加するなど、福島大災ボラは鹿児島大学とのつながりを持っていた。

今回は鹿児島大学災害ボランティアグループ『KIRP』の学生が来福し、仮設住宅で住民との交流を目的とした『鹿児島サロン』を開催した。

【協力】　鹿児島大学災害ボランティアグループ『KIRP』
【活動日時】　9 月 11 日(木)
【活動場所】　森合町仮設住宅
【活動人数】　福島大学：2 名　鹿児島大学：6 名　計 8 名
【内容】　写真立ての作成、住民との交流会、薩摩鶏飯の振る舞い

【参加者の声】　田川 佳奈子(鹿児島大学 2 年)

活動の時間が経つにつれて、お互いに笑顔や会話量が増えてきて、福島のいいところもたくさん教えていただきました。初めての仮設での活動ということもあり、至らない点も多かったのですが、福島大学の災ボラのメンバーの方々や森合町仮設の方々のご協力のおかげで私たち自身、交流の時間を非常に楽しく過ごすことができました。その一方で、震災から三年半たった今でも仮設の外に出られないほど深く傷ついている人も大勢いるという事実も知りました。震災から月日がたち、目に見える復旧が進んでいる今、可視化しづらい被災された方々の心のケアにニーズがあるように思いました。

【活動写真】

写真立ての作成

集合写真

4-5. NPO 法人アースウォーカーズとの協同事業

①福島の子どもたち日帰りリフレッシュプロジェクト

【概要】

震災から 4 年目を迎えた現在でも、福島県内には放射線への不安を感じている家族はたくさんいる。特に未就学児がいる家庭では、子どもの外遊びを制限するなど、子育て世代の不安は大きなものとなっている。

このような状況の中、NPO 法人アースウォーカーズは、上記のような家族の支援を行ってきた。その中に、福島の子どもたちを山形県米沢市に日帰りで連れていき、自然の中でおもいっきり遊んでリフレッシュしてもらうことを趣旨とした『福島の子どもたち日帰りリフレッシュプロジェクト』がある。福大災ボラでは、アースウォーカーズが主催するこのプロジェクトに協力し、今年度は 10 回参加している。

【主催】NPO 法人アースウォーカーズ

【活動日時】

第 1 回	6 月 29 日	ピザづくり、公園で外遊び
第 2 回	7 月 20 日	公園で外遊び、BBQ、ホタル観賞
第 3 回	8 月 31 日	枝豆収穫、大根の種まき、公園で外遊び
第 4 回	9 月 28 日	なせばなる祭り、公園で外遊び
第 5 回	10 月 11 日	稲刈り、公園で外遊び
第 6 回	11 月 16 日	大根収穫、ボルダリング
第 7 回	12 月 14 日	雪遊び、パン作り、ボルダリング、スケートボード
第 8 回	1 月 18 日	雪遊び、温泉
第 9 回	2 月 22 日	キャンドル作り、米沢ラーメン、そり・スキー体験、温泉
第 10 回	3 月 15 日	雪遊び、パン作り、温泉

【参加者の声】　青木 励(経済経営学類 2 年)

日帰り保養というこのプロジェクトはほぼ年間を通して私が参加した活動の 1 つで、子どもたちと様々な体験をしてきました。福島ではやらせることができなかった自転車の練習を米沢の公園で練習し、乗ることができるようになった子どももいて子どもの成長を見ることができ、感動しました。夢中で公園の遊具で遊ぶ子どもたちや、米の収穫やパンを作る姿から子どもたちはたくさんこの

プロジェクトで体験ができたのではと思います。
　いろんな季節の自然体験をアースウォーカーズさんが中心に企画してきたが、一番笑顔が見ることができたのは公園の外遊びでした。アスレチックで勇気をだして全部渡り切ったあとの子どもの達成感にあふれた笑顔、汗や服の汚れを気にせず走り回っているのをみて私も笑顔になりました。来年度もこのプロジェクトは続くので、これからも参加していきたいです。

【活動写真】

公園の中でおもいっきり走り回る

農業体験

自転車練習

スケートボード

雪遊び

かまくらの中で記念写真

②福島の子どもたちリフレッシュサマーキャンプ in 宮崎

【概要】

東日本大震災によって引き起こされた福島第一原発事故から 3 年が経過したが、今も福島では放射能の影響で不安の中で暮らしている方がいる。そのような環境の中で暮らしている子どもたちに、思いっきり宮崎の自然の中で遊んでもらおうと宮崎大学アースウォーカーズが企画した。

【開催日時】　2014 年 8 月 9 日(土)～14 日(木)

【主催】　宮崎大学アースウォーカーズ

【参加者】小学生 14 名　福島大災ボラ 2 名

【行程】

1 日目　福島駅　博多駅着　ウェルカムパーティ
2 日目　竹細工、流しそうめん、天体観測
3 日目　ウォークラリー、キャンプファイヤー、テント設営・泊
4 日目　海遊び、BBQ、クラフト体験
5 日目　火おこし、野外炊飯、お別れ会
6 日目　博多駅、福島駅解散

【参加者の声】

○吉澤 杏奈(行政政策学類 2 年)

このキャンプで初めてアースウォーカーズの活動に参加させていただきました。宮崎で過ごした思い出は参加した子どもたちと私にとっても、貴重な体験ばかりでとても思い出深い 6 日間になりました。

振り返ると、誰とバスで隣に座るか、ベッドはどこにするかなどと 、初めはとても小さな事で葛藤していた子どもたちが仲良くなるにつれて、様々なアクティビティーを協力し合いながら全力で楽しもうとしていました。短い期間で子どもたちが一つずつステップアップしていく過程をチームのリーダーとして近くで見られてとても嬉しかったです。サポートにまわる一方、私自身も福島では経験することのなかった、野外での天体観測や浜辺での貝殻集め、子どもたちとテントでの睡眠など毎日が充実していました。(蚊に何十箇所も刺されたこと、蟹が足元を歩いている日常には驚きましたが..) 子どもたちが宮崎で楽しむことを一番に考えてキャンプを企画運営してくれた宮崎大学を中心とするアースウ

ォーカーズと、心配しながらも子どもたちを送り出して帰りを心待ちにしていた保護者の方々に感謝したいです!!

○田淵 亮丞(宮崎大学１年)

今回初めて開催した福島の子どもたちリフレッシュサマーキャンプでは、大学生活一番大変だったイベントだと思っています。宮崎大学から助成をもらえたものの、何をしていいのかわかりませんでした。しかし、日程ごとにグループを分けたり、募集要項の作成やライフセイバーの方たちを呼んで勉強会を行うことで、キャンプの全体像が見えてきました。 キャンプ当日は、台風が接近しており、子どもたちが無事に宮崎にたどり着けるか心配でした。子どもたちが無事に着くと、学生スタッフと一緒にご飯を食べたり、遊んでまわりました。その日は、夜遅かったので子どもたちを寝かせ、次の日からは、流しそうめん、スイカ割り、海水浴や火起こし体験など行いました。子どもたちの中には、久しぶりに海に行った子や、初めて外でテント泊をしたという子もいて、福島の子どもたちにとっていい自然体験ができたと思います。 学生スタッフの中では、右も左もわからずに日が経っていくことで、仲間との衝突やストレスになった人もいました。しかし、無事に成功できたのは、一人一人が福島の子どもたちの喜ぶ顔を見たいと思っていたからだと思います。協力してくださった方に感謝しています。

【活動写真】

③Fukushima Kids Support Project

「福島の子ども達 宮崎に来んね！キャンプ」

【概要】

東日本大震災によって引き起こされた、福島第一原発事故の影響でストレスの中で生活していたり、外遊びができなかったりする福島の親子に、自然の中で、安心して思いっきり遊んでもらいたいという思いで、宮崎に来んね！キャンプをアースウォーカーズが企画しました。今回で第 4 回目の開催となります。

【開催日時】　2015 年　2 月 14 日(土)～2 月 22 日(日)

【主催】　NPO 法人アースウォーカーズ

【参加者】

10 組(大人 10 名　子ども 13 名)　福島大災ボラ 1 人

※今回の企画では、2011 年の「ふくしま子どもリフレッシュサマーキャンプ」でお世話になった小玉さんが代表を務めるアースウォーカーズからの依頼で、災ボラでは協力・引率ボランティアという形で参加

【行程】

1 日目　羽田空港、宮崎空港、天空カフェジール、交流会、
　　日南蜂の巣キャンプ泊
2 日目　串間ゆめ牧場、立宇津港で海遊船、都井岬、桜エイサー太鼓
3 日目　J リーグ横浜 FC 見学、南郷漁港において昼食、放射能相談会、
　　青島青少年自然の家泊
4 日目　響座太鼓体験、福岡ソフトバンクホークス見学、
　　シェラントンにおいて夕食
5 日目　自由行動、セラピストの癒し体験
6 日目　青島観光、平和台 sizin、平和台公園、ホースパーク
7 日目　小林の保育園と交流、泉の鯉において昼食、西田農園で野菜収穫
8 日目　元気村で野菜収穫や植木、竹とんぼ、かんぽの宿での温泉、
　　日向学院でお別れ会
9 日目　宮崎空港、羽田空港、福島着

【参加者の声】

〇青木 励(経済経営学類 2 年)

去年に引き続きこのキャンプに参加しました。このキャンプは未就学児とその保護者が参加対象であるので、福島の現状について、保護者の方が子どもたちの環境について不安を抱いていることを保護者の方からお話が印象に残りました。子どもたちは宮崎でいろんな体験をしてとても生き生きした表情でした。私自身も忘れられないことがこのキャンプ中にありました。

今年はほんの少しですが、裏方の方も手伝いをしたことでアースウォーカーズの方々、協力してくださった宮崎の方たちのキャンプのために裏で頑張る姿からこのキャンプはたくさんの方たちの協力で成り立っていることを感じました。これからまた自分のできることを取り組んでいこうと思うキャンプでした。

〇池田 睦月(宮崎公立大学 2 年)

私は、NPO 法人アースウォーカーズで学生ボランティアをしています。第 4 回の準備は 10 月から始まり、NPO の方や一般ボランティア、学生ボランティアで何回ものミーティングを重ねました。福島の子どもたちに自然豊かな宮崎でリフレッシュしてほしい、子どもたちに早く会いたい、というスタッフの思いが強くなっていくのを感じました。

9 日間子どもたちと接する中で、子どもたちが外で遊んでいるときの表情や、自然のもの・動物に触れているときの表情がイキイキとしていき、発する言葉にも変化が見られました。数あるプログラムの中でも、特に海遊びは人気なプログラムの一つです。波と追いかけっこする子、きれいな貝殻を見つけて保護者の方やスタッフに自慢げに見せる子、と思い思いに海遊びを楽しんでいました。毎日が、福島の親子の笑顔で溢れていました。

来んねキャンプを開催するにあたり、宮崎県内外の支援者の方々、そして福島大学災害ボランティアセンターの皆さま、その他多くの方々に協力をして頂きました。これからもこの繋がりを大切にして、宮崎から活動を続けていきたいです。

【活動写真】

宮崎到着時の様子

横浜 FC 三浦知良選手との記念写真

響座太鼓体験

福岡ソフトバンクホークス見学

宮崎観光

乗馬体験

農業体験

集合写真

5. 登録者フォローアップ事業

5-1. ボランティアステップアップツアー2014

【概要】
　自分たちが何のためにボランティアをしているのか。どうしてボランティアが必要なのか。ボランティアで交流する人たちはどういう経験をし、どういう思いを持っているのか。こういったことを明確に分かる人は少なく、また、分からないから活動に参加できずにいる人が多いという状況があった。上記のような人たちがツアーに参加し、相双地区の被害の状況を視たり、震災を経験した方の生の声を聴くことで震災はまだ終わっていないということを実感し、震災を他人事ではなく同じ福島に住む自分たちのこととして捉えられるようになってほしい。そして、それをこれからの活動のモチベーションの向上と一人ひとりの活動のステップアップにつなげてほしいという思いから本企画を行った。

【協力】
・一般社団法人 Bridge for Fukushima
・高橋永真(ながまさ)さん　(NPO 法人相馬はらがま朝市クラブ代表)
・久米静香さん　(NPO 法人浮船の里代表)

【開催日時】
　5 月 17 日(土)

【参加人数】
　25 名
　(1 年：6　2 年：7　3 年：3　4 年：2　院生：1　福島高校：4　県立医大：1　広島：1)

【当日までの流れ】
ステップアップツアー企画開始　5/1
担当者間でツアーの概要を共有
↓
Bridge for Fukushima とのミーティング
(どういった目的でツアーをやるか等)
↓

参加者募集開始　5/8(以後、随時らくらく連絡網にて募集)
↓
当日資料作成、当日のスケジューリング
↓
Bridge for Fukushima とのミーティング　5/15
(当日の流れ、資料の確認)
↓
募集締め切り、最終確認連絡　5/16
↓
当日

【当日の行程】

8:30　福島駅西口集合
8:40　点呼
8:45　バス出発
・自己紹介＆今日の目標発表
10:00　Bridge for Fukushima 相馬基地到着
・見学
10:40　バス乗車
10:45　出発
11:10　相馬市松川浦到着
・見学
・語り部(高橋永真さん)のお話
12:10　相馬市松川浦出発
12:45　報徳庵到着
・昼食
13:40　報徳庵出発
14:20　道の駅南相馬到着
・語り部(久米静香さん)乗車
・休憩
14:40　道の駅南相馬出発
15:00　南相馬市小高区、浪江町
・見学
・語り部(久米静香さん)のお話
16:30　道の駅
・語り部(久米静香さん)降車

・休憩

16:40　道の駅南相馬出発

・車内にて意見交換

18:30　福島駅西口着、解散

【総評】　吉田 傑(行政政策学類 3 年・プロジェクトリーダー)

当初は二週間という時間でツアーを完成させることは無理だと感じられた。しかし、このツアーが前年度も行われており、今回はその前年度のツアーを少し改良して行うだけであったこと、Bridge for Fukushima さんと福大災ボラとの連絡が円滑に行うことができたため、結果的には二週間という短い時間の中で実施することができた。

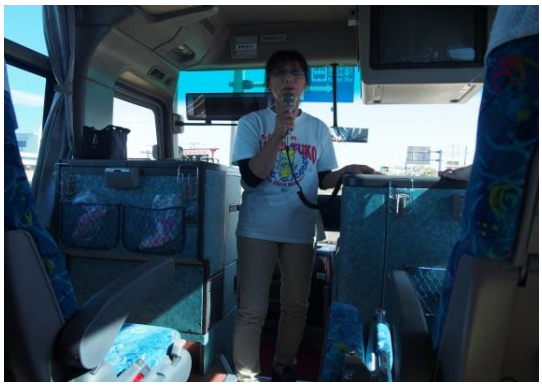
参加者の感想は、「自分の目で見て震災が終わっていないと実感できた」「被災地を五感でかんじることができた」など、身近な事として震災を感じることができたと考えられる。震災を実感するという点において、本ツアーは有効なものであった。

しかし、ツアーを行う目的である、ツアー参加者の今後のボランティア活動に繋げるという点については改善の余地があると思う。いま見た〇〇町から避難している方々が災ボラの足湯活動で訪れている〇〇仮設で生活していますなどという説明ができたら、より被災地の現状を見ることと今後の活動が繋がったのではないかと思う。

【活動写真】

相馬市原釜地区の慰霊碑前

相馬市松川浦の直売店



久米さんの語り部

これより先通行止(浪江町)

放射性汚染物の仮置き場(南相馬市)

車窓からの景色(南相馬市)

ツアー参加者の集合写真

5-2. 災ボラウィーク 2014

【概要】

大学内で災害ボランティアセンターの活動を発信するイベント週間である。また、登録者を増やしボランティア活動参加を促す効果のねらいもある。

【開催日時】

・準備期間：7 月 1 日(火)～7 日(月)
・開催期間：7 月 8 日(火)~11 日(金)

【場所】

福島大学 S 棟広場(雨天時 M 棟)、S 棟 1 階
うつくしまふくしま未来支援センター

【内容】

①こころの声
仮設住宅の方やボランティアスタッフに現状や復興活動への思いを書いた写真の展示
②活動動画上映
25 年度活動まとめ編・キャンプ編・仮設住宅編・その他活動編
③災ボラ大年表
発災からこれまでの活動記録の年表展示
④災ボラ活動写真の展示
⑤今後の活動予定カレンダー(7 月、8 月分)
⑥募金(活動カンパ金)活動
⑦フリーマーケット
⑧新規登録申し込み
⑨足湯体験会
⑩わたあめ無料配布
⑪避難所再現
⑫タイベックスーツ試着
⑬スタンプラリー
三か所に分かれた活動箇所すべてに足を運んでもらうため
⑭うちわ配布
※①・④は S 棟 1 階、②・③・⑪・⑫は未来支援センター、それ以外は S 棟前広場で実施。

【協力】
うつくしまふくしま未来支援センター

【参加者の声】　荒海 遥(行政政策学類 2 年)

私は 7 月に行われた災ボラウィークに参加しました。災ボラウィークとは、災害ボランティアセンターの活動を紹介したり、情報を発信したりするイベントです。災ボラウィークでは、足湯体験やフリーマーケット、避難所再現などが行われました。

私は活動年表づくりを中心に行いましたが、作成にあたり仮設住宅の方との交流や他県への情報発信など、災ボラの活動が幅広く行われていることを知る機会となりました。また、避難所の再現や災ボラ大年表を見て、当時の様子や震災後の状況について少し感じ取ることができ、とても有意義な活動でした。

機会があれば、今後も様々な活動に参加したいと思います。

【活動写真】

こころの声①

こころの声②

わたあめ無料配布

災ボラ活動写真展示

避難所再現①

避難所再現②

災ボラ大年表

活動動画上映

うちわ配布

活動予定カレンダー

6. 今年度の活動一覧

日時	活動場所	活動内容	人数	リーダー
H.26年度				
4月8日(火)	福島大学	インドネシアの学生との交流会	9名	久保 香帆
4月12日(土)	山形県米沢市あおぞら館	野外保育活動	2名	栗田 宿那
4月12日(土)、13日(日)	長野県上田市	スタンプラリーの補助・運営	8名	菅野 勇希
4月19日(土)	四季の里	お花見	11名	川村 遼
4月21日(月)	ウィズもとまち	FMD委員会	11名	久保 香帆
4月25日(金)	福島大学	NHKラジオキャンパス寄席の収録	5名	菅野 貴大
		ラジオ収録運営補助	9名	伊藤 航
4月27日(日)	旧松小跡地仮設	足湯	6名	佐藤 俊一
4月29日(火)	国見町・上野台仮設	親睦会	10名	佐藤 俊一
5月3日(土)	笹谷東部仮設	繋ぐ～KYOTOHOKU～	73名	菅野 勇希 小島 望 手代木 巧紀
	南矢野目仮設			
	松川第一仮設			
	二本松市・杉内仮設			
5月4日(日)	福島大学	京都の学生との交流会	65名	菅野 勇希
5月10日(土)	山形県米沢市あおぞら館	野外保育活動	2名	狗飼 小花
5月11日(土)	南矢野目仮設	足湯	10名	菅野 勇希
5月14日(水)	国体記念体育館	ロディヨガ教室の補助	3名	佐藤 洋彰
5月17日(土)	相馬市、南相馬市	ボランティアステップツアー2014	25名	吉田 傑
	郡山市	学生ネットワークMT	2名	菅野 貴大
5月18日(日)	北幹線第一仮設	足湯	9名	佐藤 俊一
	笹谷東部仮設			
	飯野学習センター	ロディヨガ教室の補助	2名	佐藤 洋彰
	東京都アサヒアートスクエア	こっちゃ来たらいいべぇ	5名	太田 桜
5月21日(水)	国体記念体育館	ロディヨガ教室の補助	3名	佐藤 洋彰
5月23日(金)	福島大学	とっとりサマーキャンプの打ち合わせ	4名	佐藤 洋彰
5月25日(日)	石神第一仮設	足湯	8名	菅野 勇希
	旧松小跡地仮設			
5月27日(火)	福島大学	全マネージャーMT	22名	菅野 貴大
5月28日(水)	国体記念体育館	ロディヨガ教室の補助	5名	佐藤 洋彰
5月31日(土)	愛知県・日本福祉大学	サマーキャンプの打ち合わせ	4名	大橋 矢
	三春町・斎藤里内仮設	緑のカーテンプロジェクトの補助	4名	菅野 勇希
6月5日(木)	福島市・AOZ	日清製粉パン作り講習	3名	佐藤 俊一
6月6日(金)	福島大学	JOYSOUNDとの打ち合わせ・講習会	5名	佐藤 俊一
6月8日(日)	桑折町・桑折駅前仮設	足湯	8名	小島 望
	国見町・上野台仮設			
	ABE農園	FMD委員会・ABE農園の視察		萩野 理香
6月10日(火)	福島大学	佐渡島キャンプ打ち合わせ	2名	伊藤 航
6月12日(木)	福島大学	JTBとの大使キャンプ打ち合わせ	2名	鈴木 典夫
6月13日(金)	大森小学校	ロディヨガ教室の補助	3名	佐藤 洋彰
6月14日(土)	森合町仮設	足湯	6名	菅野 勇希
	十六沼公園	子ども野外遊び支援	1名	久保 香帆
6月15日(日)	森合町仮設	炊き出し	4名	萩野 理香
	佐原仮設			
	相馬市・生涯学習センター	HAPPY DOLLプロジェクト	3名	菅野 勇希
6月17日(火)	福島大学	寺子屋方丈舎との打ち合わせ	8名	高橋 航平
6月19日(木)	大玉村・安達太良山仮設	天満音楽祭に向けた打ち合わせ	3名	三浦 恒彦
6月20日(金)	二本松市・杉内仮設	JOYBEAT健康体操の打ち合わせ	4名	佐藤 俊一
6月21日(土)	宮代第一仮設住宅	足湯	6名	菅野 勇希
	会津坂下町・教育のもり	森のようちえん	4名	七森 育
6月22日(日)	飯野学習センター	ロディヨガ教室の補助	4名	佐藤 洋彰
	旧松小跡地仮設	足湯	8名	伊藤 航
	笹谷東部仮設	親睦会	18名	小島 望
6月23日(月)	福島大学	JTBとのサマーキャンプ打ち合わせ	2名	松本 みなみ
6月24日(火)	大玉村・安達太良山仮設	天満音楽祭の協力願い	3名	三浦 恒彦
	福島大学	斎藤先生との打ち合わせ	3名	菅野 勇希
6月26日(木)	福島大学	国際IC協会青年ボランティアへのプレゼン	3名	萩野 理香
6月27日(金)	森合町仮設	国際IC協会青年ボランティア・仮設訪問	2名	萩野 理香
	郡山市・ぴーなっつ	ネットワーク会議		菅野 貴大

6月29日(日)	二本松市・杉内仮設	JOYBEAT健康体操サロン	12名	菅野 勇希
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	6名	手代木 巧紀
7月6日(日)	森合町仮設 佐原仮設	炊き出し	3名	萩野 理香
	山形県米沢市	県外避難者向け10円バザー	5名	伊藤 航
7月7日(月)	福島大学構内	ロディヨガの説明会	7名	佐藤 洋彰
7月8日(火)～11日(金)	福島大学構内	災ボラウィーク2014		久保 香帆
7月9日(水)	福島県田島町	高校生向けの講演会	1名	三浦 恒彦
7月11日(金)	富岡町さくらサロン	七夕交流会	3名	川村 遼
	福島大学	サマーキャンプの打ち合わせ	2名	大橋 矢
7月12日(土)	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	10名	佐藤 翔太
7月13日(日)	笹谷東部仮設 南矢野目仮設	足湯	10名	菅野 勇希
7月16日(水)	福島大学構内	未来支援センター報告会	2名	鈴木 典夫
7月18日(金)	福島大学・未来支援センター	かけはしプロジェクト・交流会	6名	鈴木 典夫
7月19日(土)	二本松市・杉内仮設	足湯	9名	佐藤 俊一
7月19日(土)～21日(月)	山梨県・清里高原	森の楽好in清里高原	3名	菅野 勇希
7月20日(日)	北幹線第一仮設	足湯	6名	伊藤 航
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	4名	栗田 宿那
	福島駅前	FMD委員会・ここふくでの商品販売		萩野 理香
7月24日(木)	田村市都路地区	都路地区視察	3名	鈴木 典夫
7月25日(金)～27日(日)	会津自然の家	じどうかんジャンボリーふくしま	8名	手代木 巧紀
7月27日(日)	石神第一仮設 旧松小跡地仮設	足湯	5名	大橋 矢
	飯野学習センター	ロディヨガ教室の補助	3名	伊藤 航
7月28日(月)～8月2日(土)	鳥取県鳥取市など	とっとりサマーキャンプ2014	3名	伊藤 航
8月1日(金)	宮城県・みちのく湖畔公園	園外保育	1名	佐藤 しおり
8月1日(金)～10日(日)	南相馬市・万葉の里ふれあいセンターなど	南相馬市小高区学習支援フリースペース	7名	菅野 勇希
8月2日(土)、3日(日)	会津美里町・宮里仮設	ならは夏祭り	2名	久保 香帆
8月4日(月)	笹谷東部仮設	育成会主催の遠足の引率	4名	伊藤 航
8月4日(月)～8日(金)	川内村コミュニティーセンター	川内村放課後子ども教室	13名	伊藤 航
8月5日(火)	磐梯高原南ヶ丘牧場	園外保育	1名	菊地 春芳
8月5日(火)～8日(金)	会津地方	こどもイナGO！	2名	川崎 桃実
8月5日(火)～11日(月)	新潟県佐渡市	佐渡島キャンプ3期	2名	萩野 理香
8月6日(水)	高知大学	避難所運営に関する講演会	1名	伊藤 航
8月6日(水)～8日(金)	福島市飯坂町	飯坂子ども野外遊び	5名	久保 香帆
8月9日(土)～14日(木)	宮崎県宮崎市など	ふくしまの子どもたち リフレッシュサマーキャンプ	2名	青木 励
8月10日(日)	森合町仮設 佐原仮設	炊き出し	2名	萩野 理香
8月11日(月)～17日(日)	新潟県佐渡市	佐渡島キャンプ4期	2名	阿部 未姫
8月12日(火)	山形県・プールジャバ	園外保育	2名	菅野 勇希
8月16日(土)	川内村・いわなの里	川内っ子の集い	5名	菅野 貴大
8月17日(日)	国見町・上野台仮設	足湯	10名	佐藤 俊一
8月17日(日)～20日(水)	会津地方	集まれ！ふくしま子ども大使	22名	小島 望
8月17日(日)～23日(土)	新潟県佐渡市	佐渡島キャンプ5期	2名	庄司 菜々美
8月18日(月)	笹谷東部仮設	アメリカ人学生との交流会	4名	加藤 実可子
8月18日(月)～20日(水)	磐梯青年交流の家	のびのびキャンプ2014 in ふくしま	2名	菅野 勇希
8月20日(水)～23日(土)	愛知県南知多など	ふくしま子ども リフレッシュサマー体験ツアー	17名	大橋 矢
8月21日(木)	栃木県鬼怒川市	園外保育	1名	菅野 勇希
8月22日(金)	あづま総合運動公園	園外保育	1名	出雲 貴浩
	山形県・プールジャバ		2名	菅野 勇希
	青少年会館	高校生平和ゼミナール	9名	伊藤 航

8月23日(土)	南矢野目仮設	夕涼み会	10名	菅野 勇希
8月24日(日)	旧松小跡地仮設	夕涼み会	15名	佐藤 俊一
8月29日(金)	飯野学習センター	ロディヨガ教室の補助	4名	佐藤 洋彰
	大玉村・安達太良山仮設	天満音楽祭用の収録	5名	三浦 恒彦
8月30日(土)	桑折町・桑折駅前仮設	足湯	7名	佐藤 俊一
8月31日(日)	森合町仮設	足湯	9名	佐藤 俊一
	宮代第一仮設			
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	4名	栗田 宿那
9月1日(月)	福島大学	浪江町役場との打ち合わせ	2名	鈴木 典夫
		創価大との意見交換会	7名	伊藤 航
	青少年会館	にぎわいボニートとの交流会	11名	伊藤 航
9月2日(火)	北幹線第一仮設	よさこい交流会	14名	伊藤 航
	国見町・上野台仮設			
9月3日(水)	Bridge for Fukushima 相馬基地インドアパーク	子ども保育	8名	伊藤 航
9月8日(月)	福島大学	アースウォーカーズとの意見交換会	5名	青木 励
9月10日(水)	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	8名	伊藤 航
	飯野町学習センター	ロディヨガ教室の補助	4名	佐藤 洋彰
9月11日(木)	森合町仮設	鹿児島サロン	8名	菅野 貴大
	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	8名	伊藤 航
	福島市	FMD委員会・サングリア試飲会		萩野 理香
9月12日(金)	浪江町	被災地視察	13名	鈴木 典夫
9月12日(金)～15日(月)	東京都・東京ミッドタウン	和紙キャンドルガーデン	4名	手代木 巧紀
9月13日(土)	Bridge for Fukushima 相馬基地インドアパーク	相馬基地閉所イベント	17名	奥村 礼
9月14日(日)	笹谷東部仮設	足湯	8名	大橋 矢
	南矢野目仮設			
9月19日(金)	信夫学習センター	ロディヨガ教室の補助	3名	佐藤 洋彰
9月20日(金)	佐原仮設	福幸祭前日準備	8名	萩野 理香
9月21日(土)	佐原仮設	福幸祭	15名	萩野 理香
	じょーもぴあ	ロディヨガ教室の補助	2名	佐藤 洋彰
	福島大学	学生団体 あおぞらとの意見交換会	4名	高橋 航平
9月23日(火)	北幹線第一仮設	足湯	8名	佐藤 俊一
	北幹線第二仮設			
9月25日(木)	国見町・藤田駅前仮設	足湯	7名	佐藤 俊一
	国見町・上野台仮設	健康体操サロン		
9月28日(日)	石神第一仮設	足湯	5名	菅野 勇希
	旧松小跡地仮設		4名	
	飯野学習センター	ロディヨガ教室の補助	3名	佐藤 洋彰
	福島県文化センター	高校生向けのプレゼン	2名	伊藤 航
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	3名	栗田 宿那
10月4日(土)	働く婦人の家	こどもあそびば	4名	菅野 貴大
	山形県米沢市・松川コミュニティーセンター	そばの振る舞い	4名	川村 遼
10月5日(日)	大阪府吹田市・天神橋商店街	天音祭への出演	10名	三浦 恒彦
10月12日(日)	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	4名	栗田 宿那
10月13日(月)	笹谷東部仮設	芋煮会	14名	小島 望
10月18日(土)	福島大学	浦和レッズハートフルサッカー教室	20名	伊藤 航
10月19日(日)	国見町・上野台仮設	芋煮会	13名	菅野 勇希
	森合町仮設	炊き出し	2名	萩野 理香
	佐原仮設			
	山形県米沢市・松川河川敷	芋煮会	3名	川村 遼
10月25日(土)	南矢野目仮設	芋煮会	15名	佐藤 翔太
	あづま温泉		8名	佐藤 俊一
10月26日(日)	二本松市・杉内仮設	いわしろ×なみえ交流会	20名	伊藤 航
11月1日(土)、2日(日)	高知大学	黒潮祭での浪江焼きそば出店協力	3名	伊藤 航
11月2日(日)、3日(月)	群馬県前橋市・前橋交流センター	前橋芋煮会2014	8名	川村 遼
11月8日(土)	北幹線第一仮設	芋煮会	14名	佐藤 俊一
11月10日(月)	栃木県那須町	園外保育	1名	七森 育
11月12日(水)	福島大学	災ボラ芋煮マラソン2014		穂刈 翼
11月14日(金)、15日(土)	新潟県長岡市旧山古志村	視察	4名	鈴木 典夫

11月16日(日)	松川第一仮設	山古志交流会	11名	大橋 矢
	宮代第一仮設	足湯	4名	佐藤 俊一
	森合町仮設	AM足湯　PM炊き出し	2名	萩野 理香
	佐原仮設	炊き出し		
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト		青木 励
11月17日(月)	国見町・藤田駅前仮設	交流会	3名	佐藤 俊一
11月23日(日)	笹谷東部仮設	足湯	7名	佐藤 俊一
11月24日(月)	二本松市・安達運動場仮設	浪江＆練馬ミニ住宅デー	21名	伊藤 航
11月26日(水)	二本松市・安達運動場仮設	JOYBEAT健康体操サロン	8名	小島 望
11月29日(土)	二本松市・塩沢仮設住宅	JOYBEAT健康体操サロン	10名	伊藤 航
	福島市内	関西大学との交流会	7名	鈴木 典夫
11月30日(日)	桑折町・桑折駅前仮設	足湯	14名	菅野 勇希
	国見町・上野台仮設			
	大玉村・安達太良山仮設		8名	三浦 恒彦
	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	11名	川村 遼
	飯野学習センター	ロディヨガ教室の補助	2名	佐藤 洋彰
12月3日(水)	二本松市・安達運動場仮設	JOYBEAT健康体操サロン	3名	伊藤 航
12月6日(土)、7日(日)	岩手大学など	全国足湯ボランティア交流会	6名	鈴木 典夫
12月7日(日)	森合町仮設	炊き出し	5名	萩野 理香
	佐原仮設			
12月9日(火)	福島大学	楢葉町役場との打ち合わせ	2名	鈴木 典夫
12月10日(水)	二本松市・安達運動場仮設	JOYBEAT健康体操サロン	1名	伊藤 航
	二本松市・塩沢仮設住宅	JOYBEAT設置		
12月13日(土)	本宮市・石神第一仮設	足湯	6名	伊藤 航
	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	6名	佐藤 翔太
12月14日(日)	松川第一仮設	あづまっぺ・クリスマス会	14名	山形 智春
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	5名	神 貴大
12月15日(月)	ウィズもとまち	FMD委員会成果発表会		萩野 理香
12月20日(土)	北幹線第一仮設	足湯	10名	佐藤 俊一
12月20日(土)～22日(月)	会津地方	ふるさとで過ごそう！家族のクリスマス	16名	鈴木 槙之介
12月20日(土)～27日(土)	南相馬市・万葉の里ふれあいセンターなど	南相馬市小高区学習支援フリースペース	12名	菅野 勇希
12月22日(月)	国見町・藤田駅前仮設	クリスマス会	6名	佐藤 俊一
12月24日(水)	富岡さくらサロン	そば打ち会	9名	佐藤 俊一
12月25日(木)	笹谷東部仮設	クリスマス会	13名	小島 望
12月28日(日)	旧松小跡地仮設	望年会	9名	佐藤 俊一
1月9日(金)	富岡町さくらサロン	味の素料理教室	2名	佐藤 俊一
1月11日(日)	二本松市・杉内仮設	新年会	12名	佐々木 海都
1月17日(土)	桑折町・桑折駅前仮設	足湯	3名	佐藤 俊一
	宮代第一仮設			
1月18日(日)	森合町仮設	炊き出し	3名	高安 健次
	佐原仮設			
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	3名	青木 励
1月24日(土)	森合町仮設	足湯	4名	佐藤 俊一
1月25日(日)	旧松小跡地仮設	足湯	3名	佐藤 俊一
1月29日(木)	富岡町さくらサロン	餅つき交流会	4名	佐藤 俊一
2月13日(金)	二本松市・杉内仮設	足湯	7名	三浦 恒彦
2月14日(土)	国見町・上野台仮設	足湯	6名	伊藤 航
	吾妻学習センター	aichikaraとの意見交換会	3名	鈴木 典夫
2月14日(土)～22日(日)	宮崎県宮崎市など	第4回 福島の子どもたち 宮崎に来んねキャンプ！	1名	青木 励
2月15日(日)	笹谷東部仮設	安波祭の補助	10名	深谷 怜
	森合町仮設	炊き出し	3名	萩野 理香
	佐原仮設			
2月17日(火)	相馬市・柚木仮設	子ども遊び支援	3名	佐藤 しおり
2月21日(土)	北幹線第一仮設	足湯	4名	佐藤 俊一
	笹谷東部仮設			
	相馬市・大野台第6仮設	バレンタインイベント	6名	手代木 巧紀
2月22日(日)	本宮市・石神第一仮設	足湯	4名	伊藤 航
	旧松小跡地仮設			
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト		
	福島市	民主党岡田代表との懇談会	2名	菅野 貴大
2月24日(火)	アサヒビール福島工場	産学共同事業報告会	24名	小島 望 鈴木 槙之介
2月25日(水)	福島市	「まちの未来創造会議」タウンMT	4名	戸浪 今日子
2月28日(土)～3月1日(日)	会津地方・裏磐梯	災ボラスタッフ合宿	13名	菅野 勇希
3月4日(水)～11日(水)	東京都八重洲地下街	東北復興展	8名	尾形 桃子

3月7日(土)	会津坂下町	みんなで外遊びプロジェクト	2名	高橋 航平
3月9日(月)	二本松市・杉内仮設	足湯、音楽交流会	6名	三浦 恒彦
3月11日(水)	福島市・まちなか広場	キャンドルナイト～希望の明かり～	8名	大橋 矢
	南相馬市・ジャスモール		5名	伊藤 航
3月13日(金)	福島市・コラッセ	結の場	4名	佐藤 しおり
3月14日(土)	森合町仮設	足湯	5名	佐藤 俊一
	宮代第一仮設			
	福島県文化センター	こどもあそびば	1名	小島 望
	福島市・青少年会館	日本ボーイスカウト福島連盟からの寄付金の贈呈式	2名	菅野 貴大
	福島大学	全マネージャーMT	16名	菅野 貴大
3月15日(日)	桑折町・桑折駅前仮設	足湯	4名	佐藤 俊一
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	2名	青木 励
3月16日(月)	会津美里町・宮里仮設	JOYBEAT健康体操サロン	4名	久保 香帆
	福島大学	アースウォーカーズとの意見交換会	2名	菅野 貴大
3月17日(火)	北幹線第二仮設	足湯	3名	伊藤 航
	福島大学	東洋大学学生へのアテンド	1名	菅野 貴大
3月18日(水)	本宮市・石神第一仮設	JOYBEAT健康体操サロン	4名	伊藤 航
3月22日(日)	旧松小跡地仮設	足湯	3名	佐藤 俊一
3月23日(月)	国見町・藤田駅前仮設	交流会	4名	佐藤 俊一
3月27日(金)～29日(日)	長野県黒姫高原など	ふくしま子ども リフレッシュスキー体験ツアー	16名	佐藤 しおり
3月29日(日)	森合町仮設	炊き出し	3名	谷井 晴香
	佐原仮設			
	岡山県・岡山コンベンションセンター	福島×岡山復興学生サミット	6名	高橋 航平

おわりに

ゼネラルマネージャー　菅野 勇希
（現代教養コース３年）

私は東日本大震災から約１年後の 2012 年４月に福島大学に入学しました。震災当時高校２年生だった私は実家を失くし、体育館で約３か月、その後の約１年 10 か月を借り上げ住宅で過ごしました。震災前はこれといった目標が無く、野球を続けていけたらいいと漠然と思っていましたが、震災が発生し、私自身が被災したことにより、将来は地元で何か地元のためになることがしたいと強く思い、それを模索するため福島大学への入学を志すようになりました。また、体育館で生活をしている時に出会ったボランティアの方々と関わることがあり、その姿に憧れを抱いたということもあり、大学では誰かを支えるようなことをしたいと思うようにもなりました。無事に入学し、震災ボランティアをしている場所を探している時にこの(学生団体)福島大学災害ボランティアセンター（以下福大災ボラ）に出会いました。福大災ボラに関わるようになり、仮設住宅を訪れたり津波被災地で実際に活動したりと、沢山の経験をこの３年間でしてきました。その中で４年目を終えた今日、仮設住宅や県内外に沢山の繋がりが出来ました。仮設住宅にお邪魔するといつも笑顔で出迎えてくださったり、孫のようだと部屋に招いてくださったりすることも多くなりました。また、福島で繋がった県外の学生がボランティアとは関係なしに会いに来てくれたり、逆に会いに行ったりと仲間も増えました。私自身、震災から１日が経ったあの日に家があった場所に戻って見た光景は今でも忘れることが出来ません。家族と約１週間連絡が取れず１人で別な体育館で生活していた時以上の不安を感じたこともありません。ただ、それ以上に福大災ボラという環境で出会った人たちの温かさや優しさなどに触れられたことが、私にとって掛け替えのない財産になっているのではないかと思います。

震災から来年度で５年目となります。仮設住宅での活動も１年目からその頻度を増し、継続して行ってきました。中には学生と関わることを楽しみにしてくださっている人たちもおり、ボランティアと被災者としてではなく、人と人のお付き合いが出来るようになったことをとても嬉しく感じています。しかし、その方の全てを知ることは到底難しく、潜在化されたストレスなどがあるように感じます。復興公営住宅への移住が進む中で新たにコミュニティ形成の問題も発生することも考えられます。移住に際して、寂しいと言葉をこぼすことを直接聞く機会が多くあり、それを切に感じています。震災関連死が特に多い福島県だからこそ、これ以上悲しいことの起こらないように、住民の方たち

に関わる人たちの中の１人、１団体としてこれからも関わっていかなければいけない、関わっていきたいと思っています。

また、これまでに引き続き体験事業としてリフレッシュ体験ツアーと題し、子どもたちや親子を対象にした大小さまざまなキャンプを行いました。震災によって外遊びの減少が避けられない子どもたちや、離れ離れで暮らす家族が、時間を忘れ思いっきり遊び、その中で絆を再確認するという時間になったのではないかと思います。これに加え、県外の子どもたちと福島の子どもたちで一緒に福島県内でキャンプを行い、福島県を知ってもらう事、また子どもたちの将来の健全な関係性作りにも取り組んできました。そこで行われた交流がこれからの子どもたちの強い繋がりになることを願っています。

私たちは学生団体であり、資金や物資集めを全て学生が行います。今年度も多くの方々から資金や物資面でのご支援を頂き、活動を続けられたことに深く感謝し、この場を借りて御礼申し上げたいと思います。私たちの活動をご理解いただき、また支援してくださる方々がいるという事は、私たちにとっても強みになると共に励みにもなっています。来年度も変わらぬご支援を頂けますようよろしくお願い致します。

最後になりましたが、私たちと一緒に活動、または私たちに対しご支援を頂きました各大学大学生、大学関係者の皆様、各団体様、活動の広報をあらゆる面でしてくださった各メディアの皆様、災ボラの活動協力に加え報告書作成に当たりご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。心から御礼申し上げます。

来年度も被災地に、個人個人に寄り添える活動を展開していきたいと思います。今後とも私たち(学生団体)福島大学災害ボランティアセンターをよろしくお願い致します。